

「東京真田町の会」会報

日本タボス

平成22年12月25日



信綱寺の黒門から古城緑地公園へつづく

あじさいの小径

梅雨晴れのひと時…薫る初夏のふるさと風景

写真提供：広報部 武捨衛人

撮 影：2010.7.11

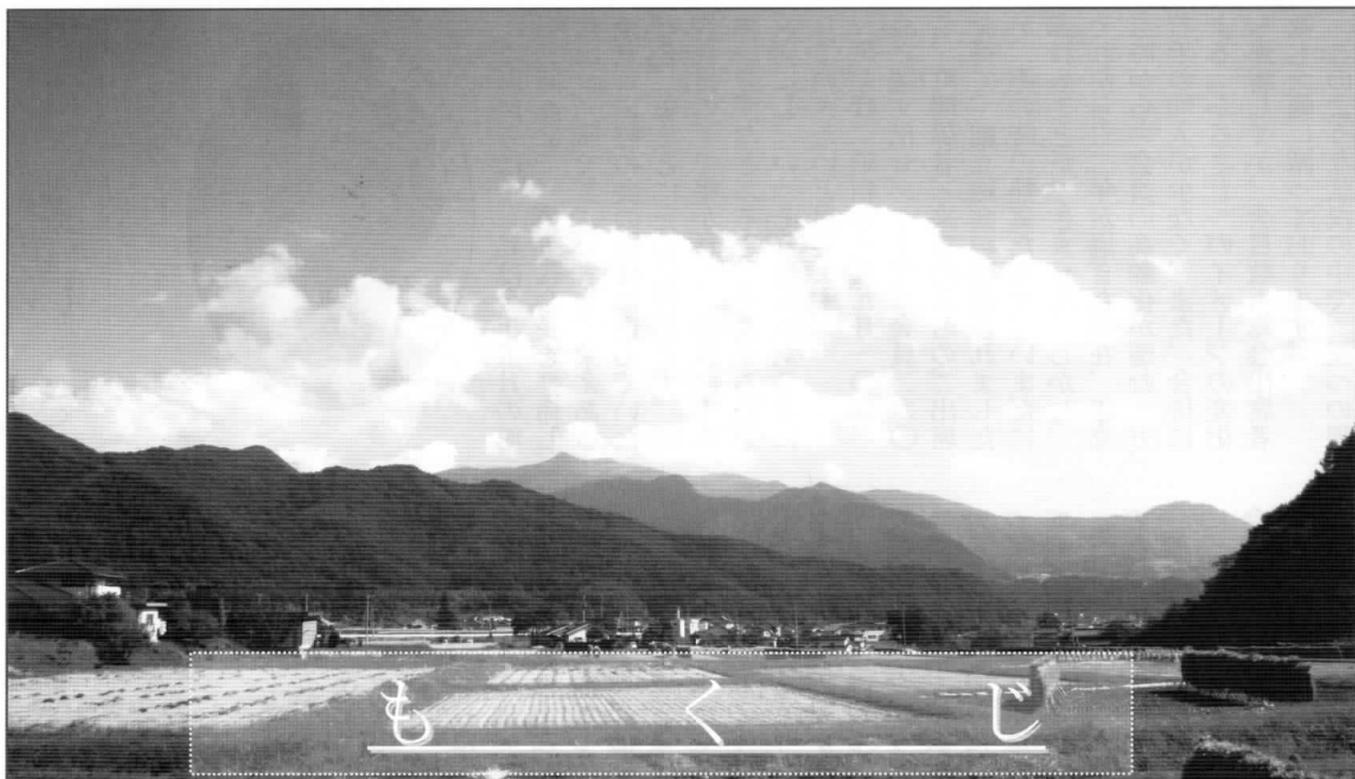
NO.

23

初夏のふるさと風景

写真撮影：編集部 武捨 衛人





一	表紙(あじさいの小径)										
二	初夏のふるさと風景										
三	もくじ										
四	ごあいさつ	会長	山口								
五	上田市の将来を見据えて	上田市長	母袋								
六	未来へ継承される今を目指して	上田市議会議長	南波								
七	東京真田町の会に参加して	上田市議会副議長	下村								
八	自然や文化を生かした町づくりを目指して	真田地域自治センター次長	小林								
九	「生まれて初めて」という災害発生	上田市議会議員	古市								
一〇	ふるさとを想う皆様へ	上田市議会議員	三井								
一一	惜別と回想	顧問(曲尾出身)	小林								
一二	「上田軍記」のミステリー その二	戸沢出身	柳沢								
一三	親睦旅行：信州北回廊	中横道出身	八木								
一四	総会と懇談会	萩出身	柳澤								
一五	第二三回定期総会・懇親会のご報告	理事(竹室出身)	古市								
一六	各部の活動報告		各担当								
一七	ふるさとのあちらこちら		編集部								
一八	東京真田町の会会長を	辞するに当たり									
一九	働いた動けた幸せ	前会長(戸沢出身)	中島								
二〇	古希雑感	真田出身	荻原								
二一	同級会万年幹事の呟き	理事(下横道出身)	堀内								
二二	稲倉の棚田のお米作りに挑戦	大日向出身	大久保								
二三	追悼	顧問(戸沢出身)	中島								
二四	会員の皆様の近況報告抜粋	理事(中組出身)	武捨								
二五	ふるさとのコーナー		編集部								
二六	会員消息・お知らせ等		編集部								
二七	平成二十一年度決算報告書		事務局								
二八	平成二十二年事業計画		事務局								
二九	ふるさとで聴いたあんな歌こんな唄		編集部								
三〇	編集後記		編集部								
三一	裏表紙(初夏のふるさと...あじさいと千古の滝)		編集部								

「あ い さ つ



会長 山口元彦

(横沢出身)

題に直面していると思います。一つは、この会を、会員の皆様にとつていつそう楽しく有意義な会にしていくことです。総会・懇親会、会報、旅行、ゴルフ、マレットゴルフ

などの企画をさらに充実させるとともに、体調その他の事情で行事へのご出席が困難な方たちにも、ふるさとの思い出を寄稿していただくなど、何らかの形で会の活動にご参加いただけるよう努力してまいります。

次に、将来も会を存続、発展させるためには、私の年代よりも若い会員を増やすことが不可欠です。これまで、なかなか足がかりがつかめなかつた難しい課題ですが、真田中学校卒業生のつながりを広げるなど、

会員の皆様にご相談申し上げ、お知恵とご助力をいただきながら踏ん張っていけば、必ず道は開けると信じて取り組んでいきたいと思えます。三つ目は、「ふるさと」のイメージ

の再構築と交流のあり方の追求です。例えば、合併前は、総会・懇親会に、「町」の幹部の方々のほか、婦人会、長寿会、農業委員会、商工会等々、地元の諸分野で御活躍の方たちもご参加くださり、人的つながりの面で

も情報の面でも、ふるさととの交流が実感できましたが、現在は地元の方たちの参加がなくなりました。市長さん、議長さん、議員さん、自治センターの皆様が御尽力くださっています。ところが、やはり以前とは雰囲気の違いがあります。そこで、あらためて、「ふるさと」をどのようにとらえ、どんな形の交流をしていけばよいか、検討することが必要になっていきます。

つきましては、会員の皆様には、今後ともご指導、ご鞭撻と同時に、お力添えをお願い申し上げます。また、市の幹部の方々並びに議員の先生方、さらには私たちにとって「ふるさと」そのものである地元の皆様におかれましても、後輩会員の紹介を含めて、なにとぞ暖かいご支援を賜りますよう、よろしくお願い申し上げます。

上田市の将来を見据えて

上田市長 母袋 創一



再び上田市政をお預かりすることになりました。

新上田市の初代市長に就任して以来、真の地域づくりを目指して「上田新時代」を創ること、そのために10年、20年先を見据えた礎を創ることを念頭に置いて市政に取り組んでまいりました。そして上田市はその揺籃期を終え、新たな成長・発展のステージに入ったと考えています。

昨今の大変厳しい経済情勢の中にあっても、地域主権の方向に確実に向っている時勢に遅れを取らないためには、上田市の将来を見据えた施策の一つひとつを着実に進めていかなければなりません。そのような

こんにちは！ 私は今年五月の第三十三回総会で、第五代会長を拝命した山口元彦でございます。栄えある東京真田町の会の会長に選んでいただき、まことに光栄に存じます。歴代会長の下で築かれた、会員同士の強いきずなとふるさとを愛する心を大切にし、いっそう活気のある会にしていききたいと思えます。想えば、昭和六三年九月一〇日、池之端文化センターで、会員二六〇名、町関係者・来賓六五名のご出席を得て、創立総会が開催されましたが、その時の熱気たるや、いまだに忘れることができません。しかし、それから二二年が過ぎた現在、創立当時からの会員の高齢化が進む一方若手の加入が少なく、また、合併による「ふるさと」のイメージの変化も影響してか、会員数も総会出席者数も大幅に減っております。このような状況の中で、三つの課

思いで今年に取り組んだ事業などの一端を申し上げます。

「ひとまち元気・健康プラザうえだ」が、6月に旧一中跡地に開所しました。健康づくりを支援する総合保健センターと、子育てを総合的に支援する施設としての機能とを併せ持った施設です。「ひと」も「まち」も健康で元気に、多くの皆さんが集うことを願ってこの名前をつけていただきました。

また、「文化の見えるまちづくり」の基点となる交流・文化施設は、上田駅近くのJT跡地に建設します。施設には大ホールと小ホール、美術館や交流施設を配置する計画で、現在その設計を進めているところです。

地域医療体制の整備については、信州大学や長野病院等の関係機関との連携を図りながら「上小地域医療圏地域再生計画」の事業を進めました。救急体制の充実と共に計画に盛り込んだ上田市産院の移転新築をはじめとする事業を実施して、地域で安心して子どもたちを生み育てられる環境の実現を目指していきます。

次に地域の魅力アップを目指した取組では、「上田を元気にしたい」という住民の皆さんの想いと、昨今の歴史ブームによる真田幸村公の人氣が結びつき、住民有志による「真田氏」をメインとするイベントが数多く開催されました。真田地域では、「真田氏発祥の郷」に多くの人が訪

れるようにと、今まで地元中心のお祭りであった「御屋敷つつじ祭り」や「身代わり地藏尊・中原りんご祭り」が市のわがまち魅力アップ応援事業を活用し、その規模を拡大して盛況に開催されました。こうした市民力を発揮した「観光のまちづくり」の気運が、全市域で高まっていると感じています。

真田地域の皆さんが合併前から建設を願っていた「真田図書館」が真田地域自治センター（旧役場庁舎）の隣に完成し、十一月一日に開館しました。出入口の六文銭が一際印象的で真田地域の特色や個性が反映された真田らしい図書館づくりを目指し、多くのボランティアの皆さんのご協力をいただきながら進めています。

菅平地区では「菅平大橋」が一月に完成し、菅平に向う国道406号の菅平ダム付近の危険箇所が解消されました。また菅平全域に光ケーブル網を整備した情報通信基盤整備事業によってテレビの難視聴の解消や、高速インターネット環境が実現しました。これらの環境基盤整備を進めることにより、菅平高原のさらなる産業の振興が図られるものと考えています。

さて、今年は災害による大きな被害がありました。「ゲリラ豪雨」と呼ばれる局地的な豪雨によるものがそのほとんどで、真田地域では8月2

日、降り始めからの雨量が真田で100ミリ、菅平で九四ミリという記録的な雨量によって住宅への浸水や土砂崩落等の被害が発生しました。市では、市内各所で発生した一連の災害に対して全庁を上げて復旧に取り組み、災害見舞金の支給など、市で出来る範囲の対応をさせていただきました。被災された皆さんにお見舞い申し上げるとともに、度重なる災害に直面し、自然の猛威を痛感した年でありました。

未来へ継承される今を目指して



上田市議会議長 南波 清 吾

未来を展望する中で誕生した新上田市。新市の誕生から5年のときを刻み、全市の一体感も月日とともに醸成され、まさにこれから上田市として力強く成長・発展・展開する時期となりました。東京真田町の会の皆様には、機会がありましたら、ぜひ故郷を訪れていただきまして、変わりつつある上田市をご覧いただきたいと存じます。

おわりに、会の皆様のご健勝とご多幸をご祈念申し上げ、会報「日本ダボス」に寄せる挨拶と致します。

きました。十六万人市民の代表として四年間、それぞれが議員の職務に専念し、議会として市の重要事項の最終決定を議決と言う形で行うとともに、行政をチェックする役割を時代に即応しながら十分に果たせるよう一丸となり取り組んでまいり所存でありますので、よろしくお願い致します。

今年の夏は猛暑が続いただけでなく、集中豪雨等による被害が全国各地で発生しました。災害が少ないと言われてきた上田市でも床上・床下浸水や道路被害等があり、誠に残念なことでしたが、災害後の対応を速やかに対応し、今後の教訓と致しま

「日本ダボス」第二十三号の発行おめでとございます。また、新上田市第二期市議会の議長として挨拶文を掲載させて頂く機会を頂戴いたしましたことに対して、まず厚く御礼申し上げます。

私たち議員三十一人は、今春の選挙において市民の皆様方の審判を新たに受け、当選の栄を与您えていた

した。

一方、国政に目を転じますと、短期間の間に鳩山首相の辞任、管政権の誕生、民主党の代表選がたて続けに行われ、結局政治の空白期間が生まれ、そのつげは国民に回ってきたようにも感じられ残念であります。

いっこうに回復の兆しの見えない地方の景気状況や雇用情勢を見ておられますと円相場の流動性もあり、まさに待ったなしの状況であり、一日も早い国の有効策を望むものです。

こうした状況下において上田市議会と致しましては四月の臨時会で、産業活性化・雇用対策を目的とした特別委員会を設置し、上田市でできる対応策を現在調査研究中であります。地方が元気でなければ国が元気になりません。皆様方の心のよりどころの上田の発展のため、市としてでき得る対策が取れるよう協力し行政に提言もしてまいります。

また、安心して暮らすためには医療体制がしっかりとれていることが大切であり、とりわけ救急医療体制や周産期医療体制の整備が重要であります。昨年十月には、上小地域医療再生計画が県で採択され、再生に向けた方向性が示されましたが、議会と致しましては重要性を認識し、今期も地域医療再生特別委員会を設置してきております。道筋も見えてまいりましたが、自ら健康づくりをし、お医者さんや病院を大切にする風土

の地域となるよう努めてまいります。

さて、皆様のふるさとであります真田地域の状況であります。真田一族人気の継続もあり、観光客が大勢訪れています。果敢に挑戦した先人の生き様が地域の誇りとなり、今に生きています。

このように世代を越え現在の私たちの行いが、未来へ語り継がれ喜ばれるようなふるさとづくりが大切であり、必要と思えます。

こうした折、皆様にこの文章をご覧いただいている頃には、真田地域自治センターと連結した真田図書館や菅平ダム沿いの急カーブを解消する菅平大橋も完成しており、ふるさとづくりは着実に進んでいます。また、菅平地区の情報通信基盤も整備され、地デジ対応等も行われ便利になりました。これらはすべて後世にまで活用され、未来への贈り物となるものと受け止めています。それぞれ地域とつて念願の整備事項であり、帰郷の際には是非それぞれ完成を実感していただきますことを期待しております。

ここで一つお願いですが、地元に住んでいますとなかなか自分の地域姿は見えにくいものでもあります。遠くからお気づきの点をこうした「日本ダボス」の場などを通じてご指摘いただけたら大変ありがたいと思っております。どうぞよろしくお願いたします。

いづれにいたしましても、初めて

立候補したときの思い、今回当選したときの決意を決して忘れることなく、まちづくりの機会を与えていただいたことに感謝しながら、皆様方のご期待にお応えできますよう、精一杯精進してまいりますので、大きく成長した、また成長していく「ふるさと真田、上田」に熱き思いをお持ち続けてくださいますようお願い申し上げます。

この会報を通じ交流がさらに深まり、東京真田会が益々発展されることを心からご祈念申し上げます、挨拶とさせていただきます。

東京真田町の会

に参加して

上田市議会 副議長
下村 栄



東京真田町の会員皆様におかれましては、益々ご健勝にてご活躍のこととお慶び申し上げます。本年の改

選により副議長を拝命し始めて東京真田町の会の総会に参加をさせていただきますました。その節は会員皆様に大変お世話になり誠にありがとうございました。皆様のご指導を感謝申し上げます。

総会後の懇親会でも話題となっていました。現在、真田地域は「真田氏発祥の地」として全国的に人気上昇し大勢の方が訪れて来ます。戦国武将の人気ランキングでも「真田幸村」が第一位となり多くの市民が誇らしく感じています。

また、「日本のダボス・菅平」も全国にPRのできる大きな財産です。諸先輩方が築かれた素晴らしい郷土の歴史や文化を継承し更なる発展を目指すことが市の一体感の醸成にも繋がるものと考えていますので今後も変わらぬご指導をお願い申し上げます。

結びに貴会の益々のご発展と会員皆様のご多幸を心よりご祈念申し上げます。



自然や文化を生かした

町づくりを目指して

真田地域自治センター次長 小林徳雄



お招きをいただき、ありがとうございます御座いました。私は真田町時代の平成34年企画課に、また、平成8、10年まで振興公社に在職してましたので、何度か東京真田町の会の総会に出席させていただきました。

今回は、久しぶりの出席でしたが、懐かしい皆様と再会でき、本当に楽しいひと時を過ごさせていただきました。また、以前と変わらない元気な、小林孝雄元会長にもお会いすることも出来ました。

さて、新生上田市も合併し、5年目に入りました。真田の自然や文化など地域の特色や個性を生かしながら、市民の皆様と協働により、真田地域らしい町づくりを進めており、平成22年度の主な取組事業について報告させていただきます。

情報基盤整備事業関係では、菅平地域及び松井新田、沼入地区に光ケーブルが9月に竣工し、テレビ難視聴対策のほか、地域の活性化、観光

振興にと期待がされています。福祉

関係では、災害時の要援護者登録制度の推進を自治会長と民生児童委員会の懇談会で呼びかけ、自治会によつては、マップ作成等の取組みが始まりました。観光関係では、ゆきむら夢工房を拠点とした観光振興を推進するため、ここに電動アシスト付自転車5台の設置や国道144号線に「ゆきむら夢工房前」というバス停を設置し、公共交通のアクセスの整備を進めています。教育事務関係では、合併前からの念願でありました図書館が竣工しました。「真田図書館サポーターの会」も立ち上がり、新図書館を皆で有効に活用していきたいと考えています。また、現在傍陽小学校の改築工事が進められており、23年度末に竣工の予定です。帰郷の際は是非、図書館、学校を訪れていただければと思います。

次に私事について、雑記させていただきます。今、上田では真田幸村公大河ドラマ実現プロジェクトの署名活動を展開していますが、幸村公の赤備えの鉄砲隊を伝承しようとして、真田地域の9名が「信州真田鉄砲隊」を結成し、イベント等で火縄銃の演

武や真田氏のPRに努めています。平成20年には、火縄銃伝来の地の種子島から招待をいただき、演武を行ってきました。本年は、3月の彦根城から始まり、上田市・真田・松代の各真田まつり、つまごい祭り、関が原フェスタ等数多くのイベントで演武をさせていただきました。今後も真田流砲術の伝承に尽くしながら、真田氏の宣伝をして参りたいと思います。

最後になりましたが、山口会長を中心に東京真田町の会の益々のご発展をお祈り申し上げます。

「生まれて初めて」という災害が発生

上田市議会議員

古市 順子



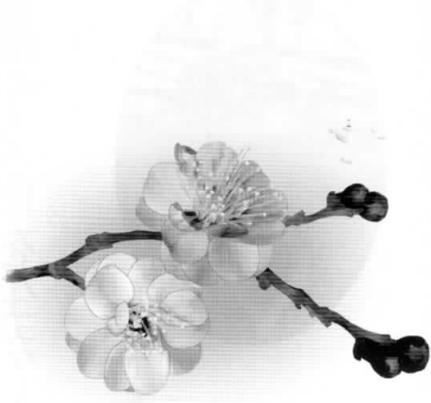
東京真田町の会の皆様には、お元気で過ごしていることと思います。5月の総会の折は大変お世話になりました。その後、真田氏の大河ドラマ

の放映実現を願う署名をたくさん送って下さる方もいらっしゃいました。今年の夏は、上田市で100年に一度とも言われる豪雨や突風に見舞われる大きな災害が発生しました。8月2日のゲリラ豪雨では、真田地域でも床上浸水9件、床下浸水61件、道路・河川42件、田・畑・農道など107件の被害がありました。

私達議員も現地調査を行い、被災者の皆様のご要望実現に努めました。災害見舞金の増額、最大200万円を支援する全国的にも少ない市独自の「上田市豪雨災害等被災者支援金制度」が実現できました。また農業を続けていくことができるように、農地の復旧、土壌改良などの支援も実施されます。「こんな事は生まれて初めてだ。」という声を多くお聞きしましたが、今は災害の爪痕は残るものの、紅葉が始まった美しい故郷です。

今年の秋は真田地域にとって、うれしい出来事があります。旧真田町時代から念願だった真田図書館が1月19日に開館予定です。真田地域自治センターに隣接し、センターの2階と渡り廊下でつないで、その一部を活用します。大勢のボランティアの皆さんが本の引越など、開館準備をして下さっています。

新図書館は真田地域らしく、真田氏関係や、あずまや高原に2006年にオープンした「らいてうの家」



にちなんだ平塚らいてう関係、菅平高原に関する事、また児童書も充実される予定とのこと。真田氏の人気はまだ上昇中のようで、先日も鳩バス2台で、若い女性が訪れていました。「らいてうの家」は、4月下旬〜11月上旬まで毎週末（土・日・月）開館します。県産材を使った山荘風の建物で、「上田市都市景観賞」も受賞しています。運営はボランティアで東京からもみえまっています。私も先日管理当番でした。絵本の読み聞かせも盛んで、有線放送でも味のある朗読を聞かせていただいています。新図書館は真田地域の文化の拠り所として期待されています。帰郷の折りには、ぜひお立ち寄りください。

最後になりましたが、会員の皆様にはますますお元気で、ご活躍されますよう心からお祈り申し上げます。

ふるさとを想う皆様
へ真田の里から 3

上田市議会議員
二井和哉

「日本ダボス」第23号の発行、おめでとうございます。

また、第23回定期総会にはお招きいただきました、ありがとうございます。昨年は人数の都合で参加できませんでしたので、2年ぶりに皆様にお会いしたことになります。

ただ、毎回親しくお話をさせていただく方でお顔の見えない方がおり、お聞きすると「お亡くなりになりました」とのこと、生きとし生けるものの定めとはいえ、寂しい思いをいたしました。

とはいえ、総会自体はいつものように唄あり踊りあり歓談あり、元一杯にぎやかな会で、楽しいひとときを共に過ごさせていただきました。



さて、上田市にはケーブルテレビ会社・UCV(上田ケーブルテレビ)

があり、チャンネルを二つ使って地域の話題を取材・放映したり、市も「行政チャンネル」枠を持ち、情報を市民に伝えています。

しかし菅平地区まではケーブルが敷設されておらず、同じ上田市内でも情報格差が生じていました。加えてインターネットの高速回線も菅平地区には張られておらず、いわば菅平は情報過疎地となっております。これらを解消するため、上田市では合併特例債も活用しながら光ケーブルを敷設し、UCVに回線を賃貸するという方式で、「菅平地区情報通信基盤整備事業」を行ない、去る九月二十四日に竣工式を行いました。

これにより、市内どこでも均一な情報取得ができるようになり、特に観光地の菅平としては、インターネット環境の飛躍的改善は集客の大きな力になると思われまます。

また、一月一九日には自治センター北側に建設していた、真田図書館が開館しました。真田幸村公の赤備えをモチーフにし、入口扉に六文銭をあしらった正面玄関は図書館の概念を超越した、インパクトのある建物となっております。

運営には、真田町の住民がボランティアとして大勢登録し、積極的に活動していますし、図書の引越しの際は中学生が何十人もお手伝いをしてくれました。

箱を造って終わりではなく、箱を造

ったあと、どう理活用し、運営していくか、ひとつのモデルケースになり得ると思われ、今後が楽しみです。

思いつくまま筆を進めましたが、「東京真田町の会」の益々のご発展と、会員の皆様のご健勝をご祈念申し上げ、拙い文章を終わらせていただきます。

惜別と回想

顧問 小林 孝雄
(曲尾出身)



「東京真田町の会」が発足したのは、昭和六十三年九月でした。その第一回総会で選任された理事は二〇名で、夫々会長・副会長・会計・監事・理事と役割分担をし、会の運営に当ることになりました。それから早くも二二年の歳月が経過し、役員も次々に世代交代して会の継続発展に尽力されています。

この二二年間に七名の方が物故者となられました。去る者日々に疎しと云われますが、この七名の皆さん

は、「東京真田町の会」創立の準備段階から、共に苦勞を分かち合った謂わば戦友であり、当時の笑顔や仕草の一つ一つが、今も鮮明に甦つてきます。ここに特に想い出に残る方について、惜別と回想を記し追悼したいと思います。

(1) 荒木孝一さん

真田町ご出身で恰幅が良く、副会長としてご尽力されました。理事会や総会では何時も笑顔を絶やさず、会を盛り上げて頂きました。それは荒木さんの人徳から生まれたものと云ってよいでしょう。

会が発足してから数年間、毎年十月一日の「真田町発足式典」には、真田町から理事が招待されて町の皆さんとの交流を深めました。また、年一回は町の役職の皆さんと会の理事が参加して、菅平カントリークラブでゴルフをし、お互いの意思疎通を図ることとしました。或る年、荒木さんから腰痛のためゴルフができないので、菅平には行きませんが休養しますと申され、ゴルフに参加しなかったことがありました。ゴルフが終った後心配になり、荒木さんが飲んでおられた白樺荘でコーヒーを飲みながら、容態を詳しく聞くことができました。それは素人の私共にも深刻なもののようなのでした。

東京に戻って間もなく、荒木さんから入院して手術を受けることにな

りましたと連絡を受けました。それは平成七年一月のことでした。手術が終わわり容態が安定した頃、病院に面会の日時を照会し、二月一日午後理事の三井君と二人で東京女子医科大学にお見舞いに参上しました。恰度(ちょうど)ベッドで休んでおられました。私共を見るとすぐに起き上がり、元気に待合室まで行き、そこで手術の様子を詳しく説明してもらいました。凡そ8時間にも及ぶ大手術だったそうですが、紙に図を書きながら克明に話して頂きました。手術は全身麻酔をするので苦痛はなかったとのことですが、手術後数日間ベッドに寝状態にされていたのが最も苦しかったとのことでした。

その後一ヶ月程して無事に退院し、以前にも増してお元氣になり、会の副会長として活躍をされました。不可能と思っていたゴルフも出来るようになり、周囲をおどろかせた程でした。真田町との親善ゴルフ大会は、数年前より東京と真田町との中間に位置する群馬県藤岡市のゴルフ場で開催することとし、平成一三年三月二三日緑野カントリークラブで、真田町から一三名、会員一名が参加して、行われました。当日は宿で一泊し、賑やかに食卓を囲みました。思えばこれが荒木さんの最後のゴルフとなったのでした。

平成一三年度の第一四回定期総会
は、一〇月二七日午前十一時から例

年通りアルカディア市ヶ谷に於いて開催されました。総会の式次第が進むにつれて、荒木さんの姿が見えないことに気付き、受付の係に聞いても出席の返事が来いませんからまもなくみえるとおもいます、ということでした。何か不安を覚えていましたが、間もなく係の人から耳打ちがあり、先程荒木さんが亡くなられたという突然の悲報でした。一体どういうことかと耳を疑いました。病気で入院されたという知らせもなく、全くの急な知らせでした。

一〇月三十一日三鷹市下連雀禅林寺斎場に於いて葬儀告別式が執り行われました。当時の三井会長と参列し、あの恰幅の良い温顔に永遠の別れをいたしました。享年七十四才。

(2) 石垣節子さん

傍陽のご出身で、私と同じ曲尾が郷里でしたから、特別親近感がありました。女性としての美德を湛えた方で、その場を明るく和やかにしてくれました。

平成十年十月一日、「真田町発足四十周年を祝う会」が真田町文化会館で開催され、東京真田町の会から多くの理事が招待されて、大勢の町民の皆さんとお祝いを致しました。式典終了後宴会に移ると、知り合いの方や初対面の方から祝杯を求められ、酒に酔ったという経験のない私は、次々に盃を飲み干しました。これが

大きな失敗となりました。帰京の車中、軽井沢の駅を過ぎた頃から気分が悪くなり、洗面所で顔を洗ったり、うがい等をして治まらず、ついに歩こうとするとふらふらして、座席に戻れないようになってしまいました。理事の皆さんが心配して連れに来てくれますがどうにも動くことができず、自分で覚悟して上野駅で救急車を呼んでもらう他なしと考えていました。

汽車が赤羽駅に近づいた頃、石垣さんが見えて「小林さん、このままだと危ないから、赤羽で降りて私の主人に診てもらいましょう。」と強く勧められ、理事の皆さんに支えられ手赤羽で下車し、石垣さんの案内でタクシーに乗り、石垣医院に到着しました。直ぐに石垣先生の診察を受け、血圧が下がっているから血圧を上げる注射を打ちますと申され、注射をしてもらいました。その途中意識を失い、深い眠りに入ってしまった。石垣医院に着いたのが夕方七時ごろでしたが、眼が覚めると夜の九時頃でした。約2時間熟睡したことになります。石垣先生によれば、私の血圧は60位に下がっていたとのこと、本当に危機一髪でした。診察室から居間に移ると、そこに私の家内と長男が待つており、驚いたことでした。凡て石垣さんが手配して下さったことで、只々感謝でした。石垣さんは謂わば私の命の恩

人とも云うべき方です。

石垣さんはご主人が医者で、大変多忙な日々を過ごしておられました。が、ご主人のご協力で理事会にも必ず出席し、会のためご尽力頂きました。私が石垣さんにお世話になった頃から体調が悪く、理事を退任されて回復に努められました。しかし、薬石効なく平成十三年一〇月一七日、肝臓ガンのため逝去されました。一〇月二一日戸田斎場に於いて葬儀告別式が行われ、私は家内と共に参列し、深い哀悼の意を表しました。ご遺族のご挨拶でご主人が「節子は日本一の妻でした。」と声を絞って話された言葉が、石垣さんの人柄を何よりもよく語っていると思います。享年75才。

(3) 塚田恒雄さん

横尾のご出身、40歳代の若き精鋭で、理事会で種々のアイディアを提案され、会の活性化に貢献されました。私の仕事は塚田さんの会社と関係がありましたので、屢々会社を訪ねたり、双方の都合のよい時二人で好物のそばを食べに行ったり、私的にも最も交流の深い人でした。

(塚田さん追悼の記事は、「日本ダボス」第17号に、私と現会長山口さんが書いております。)

塚田さんと私的にも親交が深くありましたので、平成一六年六月二十三日柏市ウイングホールさいじょう

で行われた葬儀告別式の六ヶ月後、

十二月初めに塚田さんのご自宅を訪ねました。塚田さんから五月一日に「これから転地療養します。」という電話を受けてから後のご様子を奥様から詳細承りました。肺ガンの終末期医療施設ホスピスに入院し、治療のためあらゆる療法に挑戦し、職場復帰を念願していたとのことです。しかし、その努力も報われず、入院から一ヶ月後の六月十九日ついに亡くなりになりました。ホスピスで塚田さんと生活を共にした奥様は、塚田さんの闘病の姿を見て、ただ生きようとする一人の人間の崇高な精神に触れた思いでしたと語られました。塚田さんには、長男と長女の二人のお子さんがおられますが、お二人ともこれからはお母さんの力になって、亡きお父さんを安心させたいと決意を話されました。病院にお見舞いに行った時、荒木さんと同様ベッドに寝になつており、息をはずませながら話をしました。その苦しみの後与えられた喜びであつたと思います。

そろそろ帰ろうかと思つた時奥さんから「小林さん、主人の前では非上田高校の校歌を歌って下さい。」と頼まれ、四人で校歌を高らかに合唱しました。「関八州の精鋭をここに挫きし英雄の…」という真田軍の武士の精神が、歌詞にこめられており、これが塚田さんを奮い立たせて

きた原動力かと思っております。

平成十七年六月十九日、柏市福満寺に於いて、故塚田恒雄一周忌法要が営まれました。会の理事、会社関係者、学校の先輩後輩の皆さん方多数参列し、塚田さんを偲びました。寺の境内には、塚田さんの新しい墓も建立されており、奥様の案内で参詣いたしました。

塚田さん享年63才、余りにも早すぎる旅立ちでした。

(4) 長屋京子さん

菅平のご出身で、「渋谷ログスキー」の副社長・調理部長でした。東京真田町の会が発足して最初に当面的な問題は、理事会を開催する場所を何処にするか、ということでした。

理事の皆さんから色々な提案がありました。長屋さんから「ログスキー」は渋谷で交通の便も良いし、20人位入れる部屋もあり、夕食も提供できますからぜひ使ってください、という申出があり、長屋さんの申出を有難く受けて、理事会を渋谷の「ログスキー」で開催することに決めました。当時理事の皆さんは殆んどが勤め人でしたから、「ログスキー」は大変便利で、20年以上に亘りお世話になることになりました。「ログスキー」は、渋谷駅近くのビルから、その後渋谷駅前の東急プラザビル9階に移転しましたが、理事会は現在も「ログスキー」はで開催されてい

ます。その意味で長屋さんは、東京真田町の会の陰の功労者とも云える方です。

平成九年九月七日、東京真田町の会が発足10周年記念の総会を、盛大に開催しました。その時記念のお祝いとして、会員全員に文鎮型のハイクラなボールペンを贈りました。これは長屋さんのご提案により理事会で決めたものですが、会社経営の才のある長屋さんの発案に助けられたことでした。同様のことが何度もあり、長屋さんの助言が会の運営に大いに役立ったことは云うまでもありません。

東京真田町の会の理事会のほかに、私は海軍のクラスの仲間、勤務先の同僚あるいは家内の短歌の先生ご夫妻等を招いて、「ログスキー」で何度も食事の会を持ちましたが、その都度長屋さんの優しい、細やかなおもてなしが、心地よい楽しさを齎して下さいました。特にロシヤ料理の一品一品は、長屋さんがロシヤを旅して現地実際に学んだものを、日本人の嗜好に合うように改良したものであると伺いましたが、その熱意と努力には常に頭の下がる思いでした。何年であつたか記憶が定かではありませんが、「ログスキー」の開店を祝う会が、狸穴のロシヤ大使館で行われ、そこに理事数名がご招待を受けました。色とりどりの料理が部屋一杯に並べられ、まさに豪華とも云

うべき情景でした。長屋さんから直接料理の説明を受け乍ら、ただ感嘆するのみでした。長屋さん明るい美しい姿が、一際輝いて見えました。食事の後、大使館の館員の娘さん方のバレエのダンスを見せて頂き、本当に楽しい一時を過ごさせてもらいました。

10周年を過ぎた頃、長屋さんから店が多忙なことと、体調が悪いので理事を辞任したいという申出があり、詳しく話を聞くと、C型肝炎の治療を受けているとのことでした。

「ロゴスキー」は、このまま使つて下さいとのことと、従前どおり使わせて頂くことにしました。理事を辞められた後も体調管理には十分な配慮をされ、理事会の際にも、お元気な顔を見せてくれ、私共も安心しておりました。

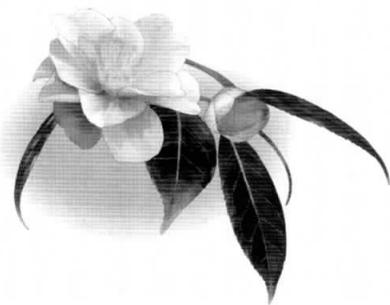
昨年(平成二十二年)一二月半ば、長屋さんから喪中につき年末年始のご挨拶を失礼させて頂きますとのハガキを受領しました。見ると一一月一八日「ロゴスキー」社長であるご主人が「永眠の知らせでした。ご主人とは「ロゴスキー」で何度もお目にかかっていましたので、早速長屋さんにお悔やみの電話をしましたが、「大変ショックです。今は何をどうすればよいのか、全く手が付けられない状況です。」と、気丈にお話し下さいました。慰める言葉もありませんでした。ご自身のお体にはくれ

ぐれも気をつけて下さい。と申し上げるのみでした。

恰度その頃、私の信州の姉が急逝し帰郷したりして忙しいこともあり、長屋さんの安否を問うことも出来なままにおりました。ところが、今年三月十六日会の理事から長屋さんご逝去の報を受け、急なことに驚くばかりでした。葬儀告別式は三月一八日、世田谷区桜新町暮らしの友会館で営まれました。死因は脳出血で、享年73才でした。この時期私の関係者お二人の葬儀が重なり、長屋さんのお別れが出来ず、誠に無念の思いです。

「ロゴスキー」は幸い長女の方が長屋さんの後継の副社長に就任し、ご主人が社長となり、従来どおり伝統を受け継いでいくとのことと、会員の皆様も何卒「ロゴスキー」に特別なご配慮を賜わらんことをお願いいたします。

以上



「上田軍記」のミス テリーー その二

戸沢出身 柳沢 郁政



上田軍記は1585年に真田昌幸、幸幸、幸村と郷民が徳川軍を迎え討った合戦の事が記されています。「神川合戦の事」として神川附近が主戦場の様ですが「水がおびただしく増し敵兵の半分以上が水におぼれてしまった」と有ります。戦況が断片的な記述のため、なぜ川床で大勢が合戦をして、なぜタイミング良く増水が出来たのか経緯が読めないのです。この軍記の現代語約が4年前に堀内泰さん(下横道出身)により出版されましたが、私はこの本を読み、すっかり「コロンボ」になってしまいました。合戦の戦況を推理しようとしていますが、そこで昨年の当誌に「上田軍記のミステリー」として投稿をいたしました。真田軍はかなりの仕掛けを組んでいるので大屋附近の棚田が防衛線に使われたのだろう、吉田堰(せぎ)

吉田池は戦略的な施設だったと推理しました。その立証に幸村が大坂冬の陣の際、真田丸の空堀内に棚田状の仕切りで区画をする畦状堅堀を施していた事を根拠としました。しかし、この合戦の指揮官で有った真田昌幸は棚田が戦略的に有効な事をなぜ知っていたのか史料も無く疑問が残る所でした。

ところが今年に入って「長篠の戦い」での勝敗の主因は戦場が水田地帯で有った為と言う新しい研究発表が静岡大学の小和田哲男先生から成されたのです。この合戦は上田一次合戦より10年前の1575年5月21日に織田徳川連合軍と武田勝頼軍が戦ったもので天下取りの主導権を争うものでした。これまでの通説では連合軍が鉄砲隊の三段撃ちで武田騎馬隊の突撃を撃破したとされていますが見直されたのです。連合軍は長篠の設楽原の西山裾に3万8千人の38隊が馬防柵を築いて布陣した。武田軍は東山裾に1万5千人の24隊が布陣し川上から2番目が真田昌輝隊で、3番目が真田信綱隊であった。両陣営の距離はおよそ200mで中央部を連吾川が流れており両岸は水田地帯で、しかも当時は腰までつかる泥田で有ったと言う。火縄銃の射程距離は200mで殺傷能力を発揮するのは100mで有り、1発撃つのに20秒か25秒を要したのです。当時の日本馬は足が短く

小型で有ったのですが、もし騎馬隊が草原を走れば20秒で100mを駆ける事が出来たので連合軍鉄砲隊の1発の発射がはずれたら一気に詰め寄せられ戦況は逆に武田軍の勝利に成った可能性が有ったのです。しかし決戦前日は強雨で連吾川は幅7mの急流と化していたと思われ、水田は田植え時季で水を張った状態でした。武田軍の騎馬は泥田に足を取られつつ、徒歩兵は水田の畦を一行で突撃する所を連合軍の多数の鉄砲、弓矢の集中砲火で撃破されたのが実状で有ったと言うのです。真田信綱、昌輝の二人の兄など多くの武将が戦死をして、真田昌幸にとつて水田の戦略的な有効性を痛切に認識し徳川への恨みをつのらせた戦いだっただけです。

さて上田一次合戦において棚田が作戦に使用されたと推理した私にとつて、これは有力な根拠であり自信を得て再度、戦況を探りたいと試みました。徳川軍7000人は佐久に布陣し8月2日朝方に神川を渡り国分寺付近に進出した。これを迎え討つ真田軍2000人の布陣は上田城に真田昌幸500人が控え、遊撃の信幸隊200人、幸村隊300人、戸石城に城兵、矢沢城に沼田、吾妻の増援部隊、丸子城真田城に城兵が持ち場を固めていた。その他、郷民3000余人が山谷の林中に伏せられており、塩尻口の上杉軍が後詰め

でいた。結果は初日で勝負がついて徳川軍死者1300人と水におぼれた者は数わからず、真田軍は死者40人おぼれた者21人で有ったと言ふ。これは驚くべき数字ですが真田軍は刀槍を使う接近戦を避け、当時最も殺傷力が有った鉄砲、弓矢に仕掛けを組み合わせた戦法で退却と分断の弱い場面を作り徳川勢に多量の死傷者を被らせた事が伺えます。信幸、幸村隊は徳川勢が神川を越え押し出して来たので黒坪村で競り合ったが軍を引き下げ上田城内に誘い込んだ。敵勢は我先に二の丸を北側に進み、西に折れ曲った奥には馬防柵と板盾を据えた城兵が待ち構えていた。昌幸は采配を取って下知し反撃が始まり鉄砲、弓矢と投石を撃ち板盾を前方にずらしつつ押し出した。本丸内からも反撃し煮えた油が掛けられ、所々に配置した油のかかった稲わらに火矢が討たれ火煙で敵兵は混乱状態に成った。本丸と横からの十字砲火あびて、たまたま後退した徳川勢は尼ヶ淵から千曲川に突き落とされ多くの死傷者を出した。城外へ逃げ出すも「信幸、幸村隊が町屋に火を掛けると折から風が烈しく吹き火は四方に飛び散った。煙の下から牛を放し、太鼓の合図で山林より郷民3000余人が紙旗を指し鉄砲を撃ちながら寄せての後陣へ討つて掛かった。攻め寄る時に苦にもならなかった千鳥掛けが邪魔になり

進退を失い徳川勢は大勢打ち滅ばされた」と軍記に有ります。徳川軍は常田附近に後退し残兵を集めて立て直しをはかったが、ここは水田と湿地帯で街道、小道には立木を倒し逆茂木を並べ柵が設けられていた。上田城兵と郷民は手痛く追撃し北側の染谷台から信幸、幸村隊と戸石城兵が突いて出て横から十字砲火をあびせ、また沼田勢が黒坪村の上へ打ち出て後ろから鉄砲を撃ち掛けた。敵勢は水田の廻りを右往左往しながら崩れ破れ、臆病に成ってしまった神川を渡り引き下がるうとした。東岸の大屋付近は棚田で水が落とされていく時季であるが、朝方に徳川勢が進出した直後に吉田池の水門が開けられ水田と街道に水が張られた。しかも矢沢城兵が土手上で守っていて退却路を断ち徳川軍の増援を分断していた。神川上流の矢沢城附近には4段に堰き止めし水が溜められ材木を浮かしていた。徳川軍が神川を渡り退却しようとした時、真田昌幸が総攻撃の采配を下して法螺貝を吹き、陣鐘が叩かれ上流の堰の綱は切つて落とされた。西岸から昌幸、幸村隊が追撃し、東岸からは矢沢城兵と沼田、吾妻勢が逆襲を掛けた。上流から河原を信幸隊と戸石城兵が押し下り徳川勢は川床で蟻地獄と化した。「折から神川の水がおびただしく増し、敵兵の半分以上が水におぼれてしまった。」と軍記に記されている。

親睦旅行：

信州北回廊

中横道出身 八木 五郎



休暇をいただいて月一、二回の山登りハイク、年一、二回の帰省とか旅行：、この歳になっても、気持は幼児に戻っちゃって高ぶる。毎度の事ながらやたら早く目覚めちゃう。

ラジオ、新聞を持ち込んで小一時間余の半身浴だ。じつくり汗流して、十四号台風も逸れた事も手伝ってか、気分すっきりルンルンだ！居残りの霧雨も上がると信じて、七時丁度いざスタート。孫達と交通博物館へ行った時と全く同じコースで、車窓からの景色の説明やら、ジツと座つてない孫達に気使いで気にならなかつたけれど、今日は一人西船橋より武蔵野線は駅の数も多いが各駅間もやたら長く感じる。

何とか出発にギリギリ間に合つてやれやれ！湯上り知らぬ同輩啓ちゃん、五郎ちゃん”顔の艶いよ！”

とひやかされるも、まんざらでもないぜよ！ほぼ定刻通り、腕八丁口八丁美人運転手兼案内の紺野さんのハンドルにて関越道へ、渋川伊香保I・Cより中之条から八ツ場ダムの現場、資料館へ、半世紀に亘る工事工程、後何十年かかるかも、紅葉美しき自然も、温泉までも、ダムの水底に沈んでしまふと思ふと複雑な気持ちにさせられる。七日朝刊一面に八ツ場「中止前提」撤回の記事が大きく、載っていた。工事箇所をバスの窓から見ながら：長野原、浅間酒蔵にて蒸籠御飯で昼食、試飲コーナーでワインやら珍酒に舌づつみしてから、草津温泉街を横目に草津・志賀ルートへ、海抜が上がるに従って、草津白根山、横手山はガスって何にもみえませぬ！けど硫黄の臭いしかと確認出来ました。国道の日本一の高所を走る二、一七二メートル、気温3℃、バスの窓は何度拭いてもすぐに曇ってしまう。熊の湯から視界の開けた木戸池で休息、池端で拍手をたたくと池の中から一メートルもある真鯉が歓迎してくれた。白樺の幹の白さと少なくなった赤・黄色の紅葉がとってもいい感じに池の水に映えて写っていました。

お次は民俗資料館「豪雪の館」、野猿公園、川の流れせせらぐ地獄谷温泉、露天風呂には一匹のおさるさんが目を閉じて気持ちよさそうに湯舟につかっていた。風呂を囲む岩上

に一家のおさるさんがアツチにもコツチにも居るわ居るわ、川向うの斜面にも、我等の歩く道路にも、躰け、良いのか？おとなしくて、愛くるしき子供のおさるさん：いまどきすぐキレル人多い中で見習いたいなあ：何時でも入りたい時に入る事の出来る温泉の効能だろうか？仲睦まじきおさるさん家族を見ていると、喉の渇きで飲む清涼飲料にない心の癒しになったような感じ。温泉とガスが一緒になつてもスゴい勢いで高く吹き上がる湯川原で邦子姉やんと道草デートで、晩秋の日は短いので、待機バスまで林道を急歩して、今宵の宿、ホテルおもだかへ到着、オモダカの紋は我が八木と同じ家紋で親近感、一風呂浴びて、宴会酒、酔い回って交替で歌う。みんなのカラオケに合せて、私も：踊りとまで行かぬも跳んだり、ハネたりのバカ合わせで踊り(全くの自己流で盛り上りました。宴会終つてホテルのカラオケに誘われるも、暴れ踊りのせい、朝早型の早かったのか？。ピタタンコくつついてボタンキュー。

寝るも早かったり、飲んべエは喉の渇きで枕元の茶湯をガサゴソ一、二杯、音に目覚めたか柳沢大先輩が起きてしまつて、深夜の追憶談義と相成つて候：半世紀前の傍陽村にガターンとタイムスリップ、上洗馬神社(横道)宮原神社(だつたような：

萩・曲尾の祭りの華である男獅子の暴れ舞い。そのうしろにヒョットコが大きな挿り粉木のようなチンチンぶらさげてユニークな舞いと云うか仕草が頭から離れずに残っている。(夕べの私の原点かも)

郷里の寒さ厳しき二月八日初午道祖神様子供達主催の祭り、藁で作つた馬に朝搗いた餅を背負わせて、道祖神様にお供えに運んでくる。我ら道祖神の傍のむしろ小屋でそれを待っている。凍みて、つべたくつて、ほっぺ真つ赤、鼻水こすつて上着の袖はテカテカ、ひび割れた手もかじかんで、食べた時の藁の付いたおもちの旨かつたこと：

一昨年亡くなった羽賀先生に図工の授業を名目に黒淵くろふちの岩の上から淵に手ぬぐいに紐を縫い付けただけのふんどしで飛び込むので、高さからと水に入った瞬間、圧力でポロリとふんどしが外れ、チンチンがヒョッコリ、同級会の時、誰かがその写真を見せてくれて懐かしや。物資のない戦後：ないものないなり子供同士の連携プレーか？工夫して遊んだ事、何か昨日のことのように想う。隣りで寝ている人に迷惑と場所を風呂に移し、話して語つて、夜半に降つた雨もピタタリと止んで先輩と風呂で好天の朝を迎えました。朝飯やたらと美味くつてお替り二

膳、大満足でした。快天気、ホテル九時出発、中野インター近くの信州フルーツランドへ直行。リンゴの直売、信濃スイート・秋映・信濃ゴールド等信州の物産が所狭しと並んで眼にすくく効くという乾燥ブルーベリーが人気との事、紺野さんのお勧めで、買つてる人沢山居たかな？

リンゴの事でチョツと私事で寄り道、一〇月一六日山仲間と湯の丸と烏帽子登つて雷電(道の駅)で別れて歩いて、しげのよりしなの鉄道で上田、友の店"治作"で小さなクラス会、今年松茸豊作と、松茸ずくしがいいねエ！

17・18日実家大久保南面の信濃スイート採りのお手伝いする。脚立に登つて、何千個採るも20個のうち一個だけ選果場へ、19個はジュース用の大箱へ。猛暑か、消毒の失敗か？リンゴの表面に黒い斑点、皮をむいて食べると味は変わらぬものの売り物とならずで八十余歳の老長男夫婦を不憫に思う。ここ数年猪の被害も多いらしい。後何年続くだろうか？畑の周りから小ならの苗植えられて、りんご畑から雑木林、そして山へと変わる。私が見さんの歳となる頃には小ならの幹にどんぐりが一杯実るだろうか？何とももの悲しいぜヨ！

私事はさて置いて、次に控えるは北信濃屈指の豪商の館、三千坪の敷

地を誇る田中本家の見学。豪商の生活・衣装・陶磁器・漆器・玩具・文書。江戸中期より昭和まで、どこまでも続く大きな広い蔵内に国宝級の品々が：ずいーっと夢中で見入って時間オーバー。四方20からの土蔵に取り囲まれた四季折々の木々群のチョウメチャすばらしき日本庭園・池との景観はその道の人には見逃せぬ必見スポットだろう。個人での法人化と聞くも継続するご苦労に頭下がります。

次に訪れた松代の地下壕は太平洋戦争の末期に軍部が本土決戦最後の拠点を極秘の内に大本営、政府各省を松代に移すという計画の下に構築、九ヶ月間三百万人の強制動員、一日三交替で徹夜の工事、大勢の犠牲者が出たという。

ヘルメット着けて入壕すると、時間がなくて、何時でUターン”の通達、せつかくなので、終点まで壕の暗道を走って到着。アリの巣のような、迷路のような、しかも硬い岩の穴、良く掘ったものだ！もつとじつくりの見学は次回にしよう。往復走ったのでヘルメットをとつたら、額から全身汗ビッシリより、でも大きな屋敷の色ずいた柿の実が青空に冴え渡って背中にかけた汗が冷えて冷たかったけど気持ち良かったです。予定の見学箇所はこれにて終了して、めざすは昼食処、佐久平のP・A。バスの駐車場から長いエスカレ

ーターでセンターハウスへ、うどんに火薬御飯・ビールまでも：松代の地下壕の往復走った喉の渴きに一杯目のビールの喉ごしは最高、五臓六腑にキ・キーンと沁み渡ったぜヨ！ハウスの近くは、スキー場・アスレチック・マレットゴルフ・かぶと虫の館と種々異なった施設が整っている。孫達と一度ゆっくり楽しみたい散策スポットかもネ！

腹一杯・楽しさ一杯・みやげも一杯、めざすは一路大宮駅、いつまでも飲んで口開く吞兵衛への紺野さん（女性ドライバー）の御忠告の意かなあ？綾小路きみまろのカセット、スイッチON、見る人・聞く人・静かに寝る人も：静かさが追い風でもないが予定より早く無事大宮駅に到着しました。二日間運転の紺野さんおつかれさまでした。

幹事さん・会長さん・柳沢先輩・我ら七人の同輩・今回参加の皆様、おつかれさま、ありがとうございませう。

最後に「あなたも、私もシメで始まり、シメで終わる。」おシメえだ！



総会と懇親会

萩出身 柳沢 實



夜来の雨は間断なく降り続く。

五月二十三日、今日は東京真田町の会総会懇親会開催の日だ。空は雨、されどそれとは裏腹に心の浮たつ思いに歩足も軽やか、心は既に市ヶ谷私学宴席だ。

それにつけても乗り換え三回ラインは常磐緩行・常磐快速・山ノ手に総武の四線を乗り継がなければ目的地に到着しないのだ。他にルートは無いのか、在る、存在するのだ。但しJR・東京メトロ・都営新宿ライン三社との併用ゆえ運賃が割高、私自身それ程己をケチとは思わないが、合理的と云う可きか、本日は日曜日、乗客数少なく、座席利用の可能性は嬉しい限り、車窓に目を転ずれば、降りしきる雨は窓ガラスを叩き雨粒は斜線を引いている。

我々の世代では一因みに私は大正末期の生まれ—この世代の人達には旧三村に関わる人的交流は行政の壁

に阻まれ皆無に等しく、その様な状況のなかで縁組などにより、個々の交流は結構存在した。

現状を觀れば、中学を通じ旧三村の垣根は取り払われ、学友達は完全に融合、そのミニ版を知りたければ私たちが東京真田町の会、これこそその縮尺版だ。若しこの会無かりせば、私自身年齢差を超え、旧三村の枠を越え、これ程多くの知友に恵まれなかつたを思えば、真田町の会の創設に係わられた多くの皆さんの努力とご苦労に感謝を禁じ得ない。

逸る気持を抑え乍ら、会場に到着は定刻よりやや早め、受付ロビーを含む宴席、穂高の間は役員皆様方が勢揃い、ふる里ムードの熱気、郷土を共にする者のみが共有できるこの一瞬、我が老軀もこれに反応、躍動感が漲る。

来賓席を伺いみれば、既知の上田市議三井和哉さん、間髪を入れず私は歩み寄り、二人の間に交わされし双手の堅い握手は言うに及ばず。私達の困んだ丸テーブルには傍陽出身者が多く会話も弾む。

定刻に開始された総会次第は順調に消化、引続き宴席は懇親の席へと移行、テーブルに運ばれし数多くの酒肴、飲む程に酔う程に会話の滑りも軽快、ふる里—こぼを交え乍ら

誰彼の噂話に花盛り…

何よりも嬉しいことは二十数年にも亘り、健康に恵まれこの仲間達と

同席が叶うことだ。刻を見計らい各
田卓へ挨拶を兼ねビールを片手にご
機嫌伺い、久しぶりの出逢いに笑顔
が絶えない。なおこの宴席で私にと
り大きな収穫が二点、その一、ジャ
ンケン勝抜きで眞田産リングゴ、フジ
五kgを獲得。その二、秋の旅行ふる
里訪問に同族の美女姉妹、志づ江ち
やん・昌江ちゃんご二人の参加同行
の確約を得たことだ。

宴たけなわの中舞台ではカラオケ
あり、日本舞踊あり、大きな声援、
大きな拍手に、年一度の総会参加、
その総てがふる里眞田の文化を共有
し、東京の下真ん中でミニ眞田を形
成、飲んで唄って踊って語り、この
様な盛会の中、ふる里上田市よりの
来賓皆様方の退席が告げられ、名残
の尽きない別れはどの様な状況下で
も寂しい。

心ゆくまで楽しんだ懇親も、ぼつ
ぼつお開きのときが近づき、恒例、
全員起立手を繋ぎ大きな大きな輪と
なってふる里信州が生んだ作詞家・
高野辰之作「故郷」の大合唱、フル
コーラスが終れば閉会の詞となる。
宴席の余韻とうたげの終わった後
の空しさ、これらの感情が混在した
中を帰路に……

第二十三回定期総会・懇親会のご報告

理事 古市礼子
(竹室 出身)



5月23日、アルカディア市ヶ谷
5階穂高の間で、第二十三回定期総
会が開かれました。5月にしては熱
い日が続いており、この日は朝から
季節がずれてしまったかと思うよう
な、大雨。でも東京眞田会の定期総
会・懇親会は、会員53名、来賓1
1名、合計64名の方々にご出席い
ただき、無事開催されました。

ご来賓いただいた方々は、上田市
から石黒豊副市長、小林徳雄眞田地
域自治センター次長兼地域振興課長
滝沢芳行同地域振興課長補佐兼地域
政策係長、南波清吾上田市議会議長、
下村栄副議長、古市順子議員、三井
和哉議員、佐藤公至議員、片山久雄
市議会事務局長、の9名、東京上田
会から、森 浩一会長、飯田孝代副
会長の2名でした。

東京眞田町会第二十三回総会は、
会長の交代という節目の時です。
会場には「日本ダボス」第1号か

ら第22号まで全てが展示され、早
めに会場に入られた皆さんは懐かし
そうに手にとって見ておられました。
この貴重なコレクションは、今年オ
ープンする眞田の新しい図書館に寄
贈されます。22年分の会報ですか
ら編集の武捨 衛人さんのところに
は、第1号が欠けていて揃わず、探
したところ山口元彦新会長が大切に
一冊持っておられたそうです。コピ
ーをしてようやくセットが揃うこと
になりました。

「信濃の国」斉唱の後、総会の部
司会は副会長柴田小夜子さん。

【中島 正江 会長挨拶 概要】

皆様こんにちは。皆さんがお元気
でこの会場に沢山出席してくだされ
ばいいなあ、と思ってそれだけでご
ざいます。お天気も当初は大雨と雷
が心配されましたが、なんとか今の
ところ小雨でもっている状況でござ
います。ここ、数日30度31度と
いう天候でございましたけれども、
今日はちよっと涼しいから楽かなあ
と思ったりしております。
第二十三回ということで、第一回

目からずつと欠席をせずに来ており
ま

した。長年おつきあいをしている
方、又今日も元気で来てくださった
なあ、という気持ちで一杯でござい
ます。

この会は堅苦しい会ではなくて、
皆で眞田町の様子や近隣のどなたか
がお元気でいらつしやるか、とい
うような話しが出来る場になりたいな
あ、和やかな会にしたいなと、私は常々
思っております。今日来て、ダレ
ダレちゃんと話しが出来てよかった
ナア・・・とね、皆多分目をつむれ
ば、あその川の石、あその田ん
ぼの花が咲いてたとか、黒門の所は
どうだっただろうか、そんな気持ち
がフツフツと沸いてくると思います。

私も84歳の実の姉を引取りまし
て、毎日その話を聞かされ、「あんた
は若いからいいよねえ、私なんか蚕
を飼ってたからさあ、あの蚕影様か
ら桑背負ってきただどお」なんて言
われて、「ああそう大変だったねえ。」
「寝るところもなかったワイ」「ああ
そう」ってね、時代が変わってくれば、
今はねカーペット敷いて優雅にテレ
ビを見てる、そんな暇がありますけ
れども、昔は莖で蚕を飼って、一部
屋でみーんなで寝てね、蚊帳つって
ヨイショと入って、皆で楽しく話し
をして核家族なんてことはなかった
と思います。それもよかったなあ、
と今つくづく思っております。

そして真田町も、上田市と合併を
しました。上田のことがだんだん薄
れて来たかなあと思いつつも、上田
駅に近くなると、真田が恋しくな
ります。

どうか、真田の方にも交通の便も
よくしていただいて、頻繁に帰れる
ように、ね、して頂ければと思っ
りしております。

昔は、荷車をひいて通った黒門の
ところの道を、今は観光バスが通れ
るように段々変っては参りましたけ
れども、でも本原の駅だったところ
の桜、ああ今年も咲いたわ、と懐か
しく思ったりして、帰るたびに眺め
ております。

多分、皆さんも田舎のことを思い
出されているんじゃないかなあ、と
思っております。

総会の出欠の返信を頂く時に、身
体が悪くなっちゃったんだけど、
会報を拜見して懐かしく嬉しいです、
と書かれていたりします。

そこで今年はやむを得ず、夏休みに
役員総動員で、取材旅行をしましょ
うという案が出ております。会報で
は今までお屋敷や信綱寺など、有名
なところを載せていましたけれど、
各地域のあまり観光地ではないとこ
ろをちよつと掘り起こして、大日向
の方、大洞（おおぼら）の方、渋沢
の方、など、会報を通して真田の故
郷の気持ちを持って頂きたい。
年会費を千円頂いておりますので、

是非 出席していただけない方たち
にも、故郷のよさを知って頂きたい
と思っております。

今日、出席されている皆様方の村
の道祖神や神社など、隠れた名所に
ついてご連絡ください。オラ文章書
くのが下手でヤダワイなんて言わな
いで、お電話でも編集長の武捨ま
で、どうぞ。又、行ったときに写真
を一枚とって、こういう所があるよ
ということでも結構です。次回の会
報では、大特集を組んで、そういう
ところを載せて行けたらなあと思っ
ております。

今日はお天気の悪い中、大勢、又、
来賓の皆様方、おいでいただき本当
にありがとうございます。どうぞ今
日一日、楽しい会でありませうように。

【石黒 豊上田市副市長挨拶】

今日は母袋市長にご案内を頂きま
したが、残念ながら公務が重なった
ということで、昨年に引き続き、私
が出席させていただきました。

本日は二十三回目の東京真田町の
会ということで、大勢お集まりの中
で、盛大に開催されますことをお祝
い申し上げます。

合併して5年、真田地域かなりい
ろんな事が起こっております。

歴史ブームといいますが、千本桜
だけでも昨年は38万人でございま
したが、ブームにも乗りまして今年
は45万人というお客さんを集めて、

これは上田公園だけではございませ
ん。お屋敷公園の方もかなりのお客
さんが見えているという状況でござ
います。先週、本原の商工会の皆
さんのお力でお屋敷の「つつじ祭り」

という催しがございました。通常5、
6百人集まればということのよう
ですが、主催者の発表によれば、三千
人という数だという風に聞いており
ます。是非そんな時期にもおいでい
ただければと思っております。それ
から真田地域では長年懸案でござい
ました図書館の建設が今、佳境に入
っております。12月には開館が出
来るといふ事でございますが、この
図書館の建設は従来の建設方法では
なく、地域の皆さんにいろんなご意
見をお伺いするなかで、場所的には
以前の消防署の位置、庁舎と立体的
に使うような計画で12月には完成
するということでございますので、
是非お出での節にはご覧いただきた
いと思っております。

それから先ほど会長さんの方から、
交通の話がございましたが、なか
なか過疎地であることからバスは苦
戦しております。観光のお客さん
が数多くおられるという事でござい
ますので、何かないか何かないかと
いう事で考えまして、バスの停留所
を新たに作ります。もうひとつは自
転車です。真田、坂道ですよね、ア
シスト付きの電動自転車も5台ほど
用意しました。これも大いに利用し

て頂きたいと、思っているところで
ございます。その他上田地域で申し
上げますと、昨年もお願いをしたは
ずでございますが産科の医師の確
保。昨年10月、49歳の産婦人科
の医学博士をもったお医者さんも確
保できました。

長野病院でも産院を合わせて、国
のお金を使って何かできないかと、
3年4年5年かける中で全体的な話
を積み上げて行きたいと努力してい
ます。

その他菅平では菅平大橋が着々と
進んでおり、多分今年のうちに出
上がります。田舎の方でもなんと
成長・発展期に向けて努力をして参
りましたことが、ようやく実現に近
づいているということ、いらして
頂き応援もしていただきたい。

それから今、幸村公の生き様を大
河ドラマで見たいという署名活動
しております。2014年は、幸村
が大阪に入りまして400年とい
年でございます。これまでに幸村、
あるいは真田三代を題材としたNH
Kの大河ドラマを是非実現させたい
と全国展開をしております。基本的
には大阪とのつながりが強いわけ
で大阪はもちろんです、東京、大阪、
上田。66万6666名の署名を集
めなければいけない。今十万人あ
まりです。是非皆さんのお力を借
りながら、大勢の方の署名を頂
きたいと思っております。

今後の皆さんの東京真田町の会の発展を記念いたしましたて、ご挨拶とさせていただきます。

【議事】

会務報告・決算報告・事業報告・予算案は、原案どおり承認されました。

特記事項としては会員数が減少している事から、縮小予算となります。会員は現在、およそ400名ですが、総会の出欠は300名ほどから返信が来ており、皆仲良くやって行きたい。

役員改選について。

中島正江氏が4年の任期を終え、山口元彦氏が新会長として承認されました。

【新会長挨拶 山口元彦新会長】

皆さんこんにちは。

栄えある東京真田町の会の会長に選任して頂きまして、心から光栄に存じております。ただ若干の重いとところもございます。ひとつは前会長の中島さん、口も八丁、手も八丁ということでございます。その後やるといふのは、ナカナカつらいところもでございます。ただその点につきましては中島さんが、オラ会長をおりても、にぎやかかしの方は任せておいておくんやあとこう言ってくださったので、なんとかバックアップ

をして頂きながらやりたいと思いません。他にその、いろいろ悩みはあるんですが、時間がないので一つだけとりあげますと、やはり一番の問題は将来的に、はたしてこの会は存続できるんだろうか、という問題です。

例えば23年前、東京真田町会の設立準備の委員の末席に連ねさせて頂いた時確か私が最年少でした。会の創立とともに理事を拝命しまして、以来22年経ったわけです。ところが会員の構成をみますと、今だに一番若手なんです。私にとって会員の皆様は先輩、大先輩、ということでございますし、後ろを振り返って見ますとほとんどいない・・と。こういうことで崖っぷちに立っているような訳なんです。そんなわけで理事会で、会長やれやという風な話を頂いたときに、「兄やん姉やんの前で会長なんておっかなくて、やだわい」とダダをこねたんですけれども、「だれえ、心配いらねえわい。兄やん姉やんと言ふものは、弟が可愛いから、皆助けてくれるワイ」とこういうことで説得を受けたんです。この言葉を信じて大丈夫でしょうかねえ？ハ拍手Vをいただきましたまして、勇気百倍ということでございます。

かけられております。そんな事言たつて、中学を出てからすでに半世紀たつていて・・・どこにどういう後輩がいるかわかんねえだ。そんなことやれつこねえと反論したんですが、これに対しては、「ヤマちゃんなあ（私のことなんです）物事つて言うのは、初めつからそんな筋道が見えているなんて滅多にねえだわい。やりながら考えるしかねえだ」と判ったような判らないような話して煙にまかれてしましまして、大きな課題まで背負わされて気持ちまでちよつと重いとこう状況でございます。

そう申ししても仕事の上で考えて参りますと、（弁護士として）私もかなり難しいなと思うような案件をこれまでやりまして、目の前で困っているらしやる方がいるのに放って置くわけにもいかないと、「まあやれるだけやってみますか」という事でお引き受けることがあります。そういう場合の方がとにかく何とかしなければと、いろんな調査をしたり判例を分析してみたり一所懸命に努力を致しまして、その内にいつの間にかのめりこんじやってですね、夢中になって取り組んでいると、そうしている間に案件の種類によって程度はありますけれど、やっている内に、光が見えてくるという事があります。そういう事を考えまして東京真田町の会にしても、そんなような

気持ちで頑張ってみようかと、こういう風に思っております。つきましては会員の皆様におかれましては、これまで道りご指導、ご鞭撻をいただきたいと同時に、ここからが大事なんですよ、しつかりとお力添えをいただきたいと、こういうお願いがでございます。又故郷で、新しい上田市づくりの先頭に立っていらつしやる町の幹部の方々議員の先生方におかれまして、やはり後輩の紹介というようなことを含めまして、一層のご支援賜りたいとお願い申し上げます。次第でございます。

まあともかく、やるつきやねえだわナイ。（笑い、大拍手）

■司会・副会長 柴田小夜子
それでは今年度より、山口新会長の下皆さんとともに頑張つて参りますので、これからもよろしくお願いいたします。（拍手）

それから今までの会のために、本当に尽くしていただきました中島正江会長。家事をしながら、会の運営もということで大変な事だったと思いますけれども、長年ご苦勞頂きました。どうもありがとうございます。

△花束贈呈▽

【退任の挨拶 中島正江前会長】

どうも、皆様ほんとうに有り難うございました。私はおてんばでございましたので、この会をするまでは

世田谷少年サッカー連盟というものを設立しまして、そこで第二代の会長、会員は世田谷区の青少年六千人でございました。試合会場が四会場、毎日八百の試合をこなして、1日も風邪をひいて休んだということのない、20年間少年サッカーの子ども達のために捧げて来ました。その頃は短パン手袋、子ども達に気合を入れてましてギリギリしてました。こんな着物を子どもがみると上から下までじろじろ見て、おばちゃんどうしただいその格好！って言います。

(笑い)

でも素晴らしい子ども達の瞳をみていると、辞めるに辞められず、当初玉川の河川敷の石ころで雨降って泥がたまる、空き缶で水を川に流しながらやっていったサッカー場が、今は一面の芝生のグラウンドです。

世田谷公園の中にも野球場は出来ても、何故かサッカー場は作ってくれなかつたんです。それでゴネマシテ、前の都議会議長の菅沼先生のお孫さんがサッカー少年だったので、陳情しました。すでに(運動公園の)設計図が出来ていて、多目的という場所が出来る予定でした。多目的ではドッグランに使われたりしてしまいうわけで、やはりきちっと囲って少年専用のサッカー場を作って欲しいと陳情しました。先日亡くなりました前の鈴木都知事が、私が秘書としてお勤めしていた頃の上司でござい

ましたのでそんな話をしましたら、その鶴の一声で、少年サッカー場が出来ました。今、当時の子ども達は30歳、40歳に近くなって来ております。その子どもたちが結婚をして、又その子どもが、今年少年サッカー連盟の下で試合をしております。家の孫もそろそろデビューするんじゃないかと思いつながら、高校サッカーまでは生きていられるかなと、でも頑張つてその姿を見たいなと、思っています。

そんな中大久保さんに、この会のお誘いを受け、役員にさせて頂きました。会員としては出席しておりましたが、役員として約十年間楽しく、本当に楽しくさせて頂いたきありがとうございます。どうぞ皆さんこれからもお元気で、是非こういう会に元気で出席して頂けたらと思います。本当にありがとうございます。

■懇親会の部 司会・副会長 鈴木邦子

【歓迎の挨拶 塩沢和政顧問】
本日は皆様お忙しい中、お足元の悪い中、ご出席を賜りまして有り難うございます。

これからこの会を發展させていく為に我々も頑張りたいと思っておりますので、どうか皆様もお力を貸していただいで、よろしくお願ひしたいと

思います。

【祝辞 南波清吾上田市議会議長】
実は私、先週14日の日に菅平の牧場開きということで、やはりお呼ばれで行つて参りました。それはそれは大変な日でございまして、霧がまいて来たと思つたら、雪がチラチラして参りました！(笑い)先週の14日の日でございましたけれども、もう上田は桜も過ぎながら菅平に登ると雪が降っている。牧場開きはしたけれどもまだ牛は放牧されないと、お話を聞きしましたけれども、最近の家畜農家の皆さんの状況では、地域の上田市内では菅平の牧場に牛を放牧する畜産農家はなくなつたと、神奈川、静岡、群馬、そちらの方から年間、約500頭ぐらい牛を預かつているよ、というお話でした。そんな中で神主さんが来てお払いをして頂いたんけれども、マア、寒い何の、(笑い)ブルブル震えながらでした。上田市も合併いたしました、広——い上田市になつたなと感じた日でもありました。

皆様方におかれましては、真田を離れられまして日々の生活を送る中でも、故郷にはおそろく熱い思いを寄せながら、日夜活動されている事と敬意を表する次第でございまして、中島会長さんをはじめ、役員の皆様方には感謝を申し上げる次第でございまして。

新生上田市も誕生いたしました5年を迎えるわけですけれども、母袋市長が言われておりました揺籃期から成長・發展期ということで、上田市も事業もいよいよ本格化したしまして、合併四地域の特色を生かしながら一体感も急速に進みつつあると感じるところでございまして。私ども議会も新生上田市2期目ということでスタートをしたわけでございまして、けれども、各種の役員、常任委員会、又特別委員会、それぞれの役職も決まりました。市民の目線の中で、活動に邁進しているところでございまして。

真田と申しますと日本のダボスといわれる菅平高原から、さまざま高原野菜が作られているわけでございまして。又真田氏縁の地という事で、多くの個性ある歴史、文化、産業が、新たな信州文化の魅力となつておりますけれども、なんと申しても地域を愛し努力を惜しまない地域の皆様方が上田市の一員となつて、私どもも大変力強く思っております。

私自身は真田とは直接縁はないんですけれども、大きい上田市になりました。私の出身は上田市の一帯西のはずれの旧川西村というところでございまして。室賀なんですけれども、十年ほど前にふるさと創生の一億円を利用して、温泉があたりました。室賀温泉ささらの湯という事で、発掘した時には源泉で51度。

1分間に350リッター、湯質が大変素晴らしく、ヌルヌルして美肌の湯という事で気持ちがいい。その温泉は評判がいいものですから、他所から来て頂くお客さんが年間平均で30万人から35万人。1日平均600〜700人。多い日は、千人も二千人も入るといふ状況になって、ちよつと浴槽も洗い場も狭いということになりました。たまたま多額の寄付を頂き、今改修工事をやっております。

6月の20日にはリニューアルオープンして素晴らしい施設になりましたので、是非又、帰郷の折にはご利用いただければと思います。

元々真田と上田は縁が深く、真田には上田市の水源があり、旧上田市もお世話になっておりました。又高校や職場の関係から、真田町と上田市の合併はなるべくしてなつたと感じております。時には里帰りをして頂いて、発展している故郷を目の当たりにしご助言を頂ければと思う所でございます。

結びにあたりまして、今真田氏ブームで大賑わいでございます。このようなチャンスを生かさない手はございません。歴女といわれる幸村ファンが、裾野を広げながら平日でも大勢訪れております。NHKの大河ドラマへのご署名をお願いするところでございます。早く達成したいと願っております。

【祝辞 森浩一東京上田会会長】

皆さんこんにちは。本日はお招きいただきありがとうございます。第二十三回東京真田町会の総会並びに懇親会、盛大に開催され心からお祝い申し上げます。それから中島会長様にはいろんなことで、ご厚情をたまわり有り難うございました。御礼申し上げます。それから新会長の山口さん、今後ともよろしくお願い申し上げます。

私は真田というんですね、グウィーと少年の頃に時間が下がってしまいます。それで根子岳の登山、蕨とりという具合で上田丸子電鉄が真田まで通っております、真田の駅に降りますと山のような材木、すごいなあと思っておりますし、夏は素晴らしいキャベツが今のようダンボールではない、箱詰めでたくさん駅前にあつて、貨車で運ばれてゆく様子を鮮烈に憶えております。

それが過去でありまして、今新しいものが加わりました。

昨年の夏にアニメーション映画の「サマーウォーズ」が上映される前。ご承知のとおり、この映画の舞台は上田であります、真田から上田の方一帯がイメージとして描かれるわけであります。その前宣伝ということで、東京新橋の汐留で、イベントがございました。上田からは母袋市



長はじめ大勢お見えになって、はつぴを着て通行人にサマーウォーズ是非みてくださいと呼びかけを致しました。東京上田会からも四十数人参加をいたしました。実はその時にですね、通行人の皆さんに配ったのが、レタスでございます。まあなんと真田から大量のレタスが届きました、ビニールの袋に入れては通行人のみなさん渡す。それで、そうだ真田はレタスだ。今風の野菜としてこれだけ消費者の皆さんに知られてるのをついっかかり忘れていたと認識いたしました。

東京上田会といたしましては、文化的な交流、観光の宣伝、生産物などのピールなどでも少しでも故郷のお役に立てればという事で活動しております。生産物の関係で申しますと、6月にはジャガイモ堀のツアーがありますし、又秋には大根堀りのツアーですとか、りんご狩りなどがございます。そういった物を通して私ども、故郷を出て東京近辺で生活している人たちと故郷上田の人たちとの間でいろんなコミュニケーションが出来ればこれが本当に良いことだなあと、思っているわけでございます。真田町の会の皆さんのいろんな活動に敬意を表しますとともに、私どももそういう活動をやっております。なだでもいつでもご自由に参加していただいで、そ

ございまして、これからも東京真田町の会の皆さん方と是非仲良く、いろんなことを共にやっつけていけたらいいなあ、と思っております。一つ、色々なことを教えていただいたり、一緒に楽しんだりして行きたいと思っておりますので、よろしくお願い申し上げます。

【乾杯 柳沢實会員】

どうも皆さん、暫くでございまして。皆様の元気な笑顔にお会いできましてこんなに嬉しいことはございません。

又 本日は、私たちふるさと真田を含む上田市からも大勢の皆さん方のご臨席を頂戴いたしました。このように盛大な総会になりましたことを、本当に嬉しく思うわけでございます。先ほど前会長の中島さんより故郷の石ころの話がございましたが、私も、故郷を離れたのが昭和二十六年でございます。その時、持つて参りましたのが、川から二個の漬物石を持って来て、現在もその石を使っております。(会場、爆笑)そんなわけでございます。私たち故郷真田のいやさかと東京真田町会会員のすべての皆様方のいつまでも健康で幸せでありますことを心に念じながら乾杯を行います。ご唱和をお願い致します。乾杯！

■そして、皆さん、飲食とともに、



各テーブルを廻りおしゃべりを楽しんでおられました。庭の手入れや、知人の噂など、他愛ないような、でも、会っている事そのものが、嬉しい、といった兄弟や家族のようなお喋りで、時間はアツという間に流れています。

隠し芸、真田郷の踊り、上田市からの特産品のプレゼントなど盛りだくさん・・・。

テーブルに聞き耳をたててみると、年々少人数になっていくけれどもこの程度の人数は皆の顔がよくわかってナカナカ居心地はよい、という声もささやかれるなど中島前会長さんの方針どうり極めて和やかな親しみのある雰囲気でした。

ある会員の方が、年もとってきたのでそろそろ退会しようか・・・と考えていたが、昨年旅行に参加したところあまりに楽しくこの会は捨てがたい、やはり継続することにしました、とおっしゃっていただいたのがとても印象的でした。
では又来年お会いしましょう。



各部の活動報告

☆ 親睦旅行

期日：一〇月三十一日～十一月一日
 参加者：男一三・女八・計二一人
 行程：1日目 大宮駅西口大宮ソニックビル パレスホテル1階入口前（九時）～関越道・川越IC～渋川伊香保IC～中之条～八ッ場ダム資料館見学～浅間酒造観光センター（昼食）～草津・白根山・志賀高原（紅葉）～通過～上林（地獄谷野猿公苑）見学～湯田中温泉ホテル「おもだか」（一六時五〇分）



2日目 ホテル「おもだか」（九時）～中野（信州フルーツランド）買物～



☆ スポーツ

◎ ゴルフ同好会

須坂（豪商・田中本家）見学～上信越道・須坂長野東IC～長野IC～松代（象山地下壕）見学～長野IC～佐久ラ・ズッカ（平尾山公園）昼食～関越道・東松山IC～大宮駅西口大宮ソニックビル前（一六時四五分）
 担当理事 金子誠

恒例の春季親睦ゴルフ大会は四月六日、常陽CCで開催され、参加者は12名でした。

プライベートハンディ方式でプレイした結果、優勝：宮沢達人氏、準優勝：堀内 政氏、三位：佐藤宏次氏で、ベストグロ賞は堀内 政氏でグ



ロス81でした。



秋季親睦ゴルフ大会は一〇月五日、春につづいて常陽CCで開催。参加者は12名で、優勝：飯島慶三郎、準優勝：牧野 満、3位：石巻政治、ベストグロ：飯島慶三郎の各氏でした。

◎ マレットゴルフ

春の大会は降雨のため中止、秋の大会は10月23日、11人（男性6、女性5）の参加を得ていつもの新座のマレットゴルフ場で開催、優勝：鈴木邦子さん、準優勝：滝沢けさ子さん、三位：岸 俊子さんでした。

担当理事 荻原啓治





久しぶりの役員研修会の宿 H22. 7. 11



ゴルフの後のタラレバ宴会 H22. 4. 6



しらかば通信発送後のお花見 H21. 4. 4



ヒョットコは誰でしょう H22. 10. 31



志賀高原の晩秋、野猿公苑にて H22.10.31



初夏の高原の爽やかな朝食 H22. 7. 12



ふるさと信州巡りの車中にて H22. 11. 1



晩秋の湯田中温泉にて H22. 11. 1



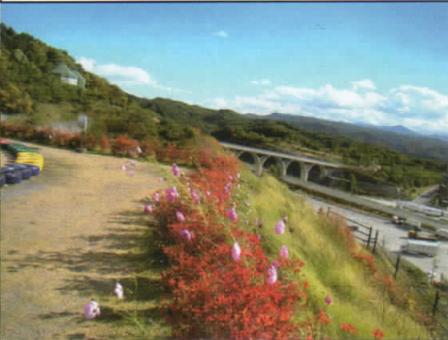
親睦旅行の華の若手衆 H22. 10. 31



中島顧問の稲倉の棚田の稔り



初夏の稲倉の棚田風景



晩秋の佐久高原の風景 H22. 11. 1

..... 投稿・寄稿のお願い

日本ダボス 24 号・しらかば通信 15 号への投稿・寄稿をお待ちしております。感想文・紀行文・思い出・近況など、日本ダボスは 2,400 字以内、しらかば通信は 800 字以内で、ご連絡は次の担当理事までお願いします。

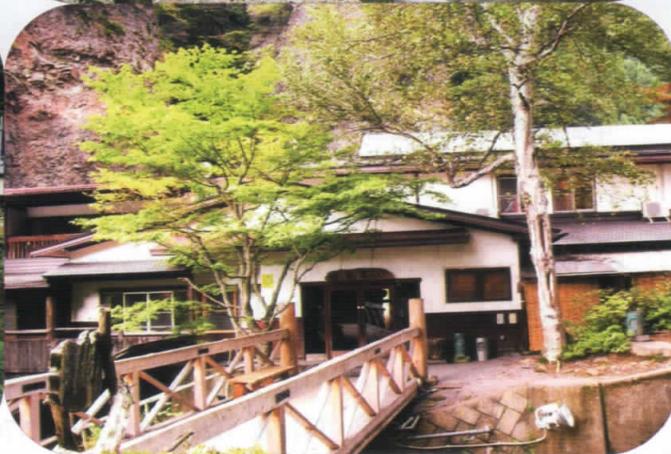
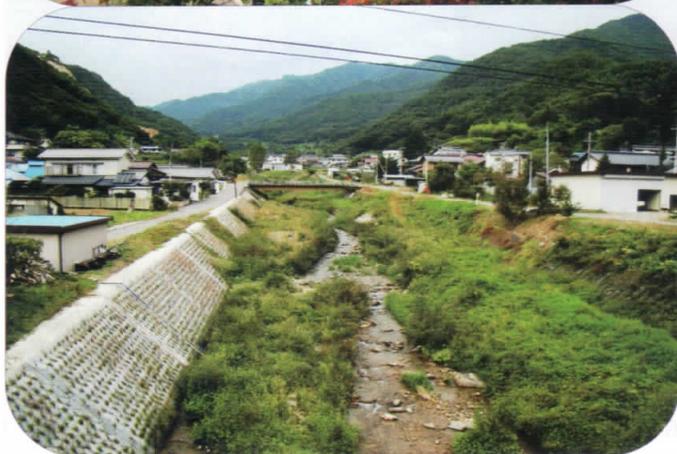
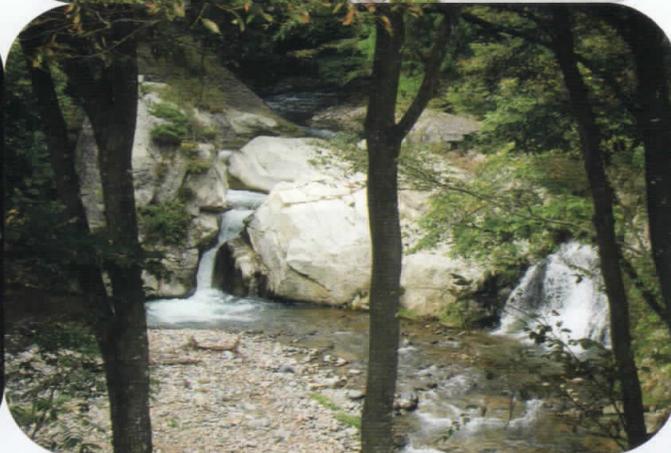
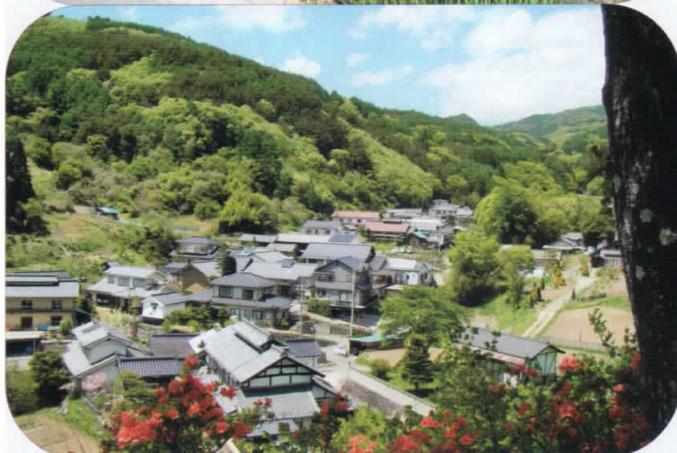
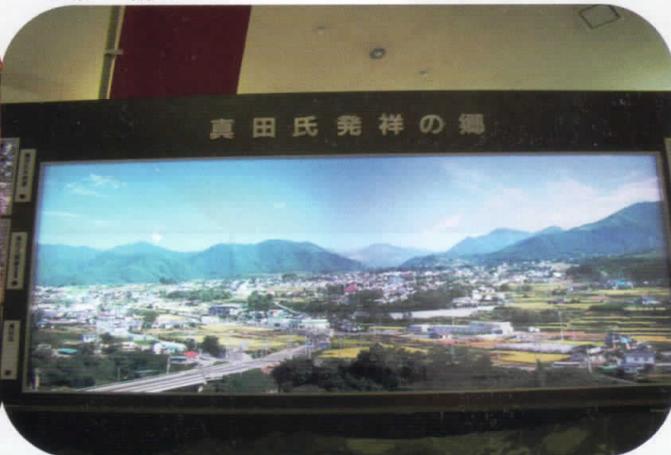
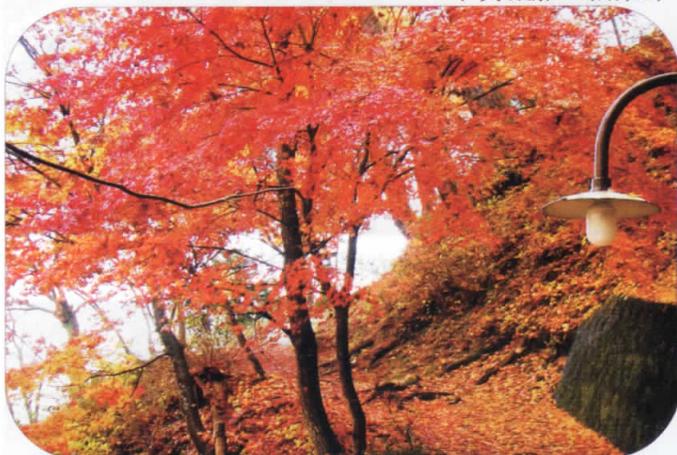
広報担当理事 武捨 衛人

〒359-1145 埼玉県所沢市山口 5040, 39-5-405

Tel & Fax : 04-2949-4776 mail:m-musya@nifty.com

ふるさとのあちらこちら

写真撮影：編集部 武捨 衛人



東京真田町の会会長を辞するにあたり

前会長 中島正江

(戸沢出身)



会員の皆様にはお元気で過ごすごし
のことと存じます。

私もこの会に入り早や二十数年が
過ぎ、この度、東京真田町の会の会
長を優秀な山口元彦さんにお引き受
け頂き、ほっとしている今日この頃
です。

私は本当に理事の皆様にお助けを
頂きながら4年間、会長としてやっ
てこられました事、感謝、感謝で御
座います。

まず第一に会員の皆様が年一度の
総会を楽しみにご出席して下さるこ
とをモットーに、かた苦しい事はぬ
きにして一日笑いの絶えない日にし
たいと思ったり、田舎の言葉も忘れ
ないようにね、でも不思議と出てき
ますね…。

旅行会、ゴルフ会等々企画し、多
数の会員の皆様にご参加して頂き、
会員同士の親睦も出来ました。

一方では会員の皆様もご高齢にな
られ、ご不幸のお知らせに接するこ

とも多くなりました。

この会の発展に多大なご尽力を頂
きました理事の皆様、石垣節子さん、
荒木孝一さん、塚田恒雄さん、関谷
義久さん、飯嶋義道さん、長屋京子
さん、会員の皆様と共に御冥福をお
祈り致します。

さてこの会は上田市より多大な補
助金を頂いております。これがない
と会が成り立たないくらいです。母
袋市長さん、石黒副市長さん、ご両
人とも、とても笑顔が素敵です。

市議会議員の皆様にも、そして地
域自治センター長さんはじめ職員の
皆様にも東京真田町の会に多大なお
心使いを頂き、その度にいつも心が
和みました。本当にお世話になりま
した。

この会の総会で、わが町の様子を
お聞きする事、市長さん始め皆様の
上田市はこうしたい、又真田町には
こう云う物を作って行き、町の皆様
が住みよい町にしたい、(今年はたし
か図書館が出来たと思えますが…)、
学校の増改築等々や公園の整備とか、
色々なお話があり、これが私にとて
も楽しみにしている一つであります

た。

どうぞこれからも東京真田町の会
の事、くれぐれもよろしくご指導下
さいますようお願い致します。

本当にお世話様になりました。今
後は一会員として私で出来る事があ
りましたら、お手伝いをしたいと思
っております。

これからは念願でありましたお米
作りに挑戦して行き、多くの子供達
にも一日体験等の機会を用意して上
げられたらいいなあと考えておりま
す。

働いた動けた幸せ

真田出身 荻原 學



会社勤めの頃は全く縁がなく想像
すらしなかったが、「定年退職したら
是非入ってくださいよ」背をシャン
とした近所の真面目な人から声をか
けられ、人柄と熱心に誘われたので、
考えてみる事にした。

それはシルバー人材センターだっ
た。近くの駅そばに春から開設した。

ばかりの市施設の自転車駐車場への
勧誘だったのだ。早速センターに赴
き説明を聞き、即入会したがけっこ
う希望者も多かった。その時は、セ
ンターと深く関わるとは全く考えら
れなかったのだ。勧誘してくれ
た隣人にも顔を立てて希望される通
りに自転車駐車場勤務となった。

勤務は二人がペアで午前組と午後
組、事務所係と一時駐車係、最初か
ら事務所勤務と決めていたふしがあ
った。市はセンターに丸投げ、セン
ターも駐車場に丸投げだ。

現金収入は毎日あり、その他の報
告もあるのだが、その報告書が非常
にやりにくい。何とかならないもの
かと改善に取り掛かった。意気投合
するSさんと様々な改善改良を進め
る。センター会員は雇用関係が生じ
ないので、他者からのクレームなど
は出ないので、気楽に思うがまだ
が、なるべく誰が担当しても作業が
やり易く、センターにも分かりやす
いのが良いだろうと結果として了承
された。

駐車場の契約者は近隣の通勤者
と他方からの大学生、その管理が一
苦勞、自分には何の得もないが、報
告の利用率を少しでも上げる為に工
夫と努力、また学生には配慮も必要
だった。午後組は当日の収入金を銀
行の夜間金庫に納入するのだが、誰
かに見られているような気がして神
経を使い、終わって安堵、無事故で

よかった。

あつと思つ間に二年が過ぎた頃、突然センターから、地域班長をして欲しいと：予期せぬことなので断つたが再度の依頼、しかも重役役員から「サポートしますから大丈夫ですよ」うまく優しい？一言で受ける事とした。

地域には約三十人足らずの会員仲間、会報の配布、定期総会の出欠有無確認、地域懇談会では会場の設定から参加者の確認、総司会から諸手配など、全戸配布物の諸手配等、今考えるとよく動けたものだ。

定期総会の司会に指名された。あらかじめ台本めいたものはあつたがやるしかない。現役時代の労組の役員や会社での経験が役立ち、務め終えて安心、そんな時もあった。

センターでは色々な委員会があつたので依頼がくる。それに参加するなか、ふすま張替えのリーダーで気心を共有するOさんがいた。二人で練り上げるイベントも、チームワークの成果で先ず先ずの盛況に安堵したものだ。

年に一度の研修旅行があつた。研修はほんのちよっぴりで慰安旅行だ。班長が対象だが様々な経歴の持ち主が個性ある体験話などで懇親を深めた。

市の職員が駐在していたが、選挙の立会人をしてくれませんか？と突然に声をかけられた。えっ私で良い

のですか？是非お願いします。参議院の選挙だった。同じ地域で住まわっている職員で、私が投票する投票所の総責任者だった。

当日は三十分前に集合、五人のメンバーの中には二十歳くらいの若者もまた警察官もいた。定刻、責任者が大きな声で開始を宣言、時間前から数人が待つ有権者の一番に並ぶ人に投票箱内部の確認をしてもらう。

我々立会人の役目を理解した。投票用紙を持ち帰らない監視である。

当然、顔見知りも、どうしてあんなが立会人なんだと思つた人もいただろう。交替で休憩、それなりの休憩室があるのだ。問題もなく無事投票を締切ると、施錠し、待機させていたタクシーで夜道をなるべく早く開票所へ向かった。着くと投票箱をひたたく様に所内に消えた。かいま見る所内は殺気立っていた。得難き生涯一度の体験である。

五年後脳梗塞の発病、幸運にも二ヶ月で退院、徐々に回復したが、センターは辞退した。

Oさんは終生の友人である。センターでは手を出し口を出す人が役につく、やればやるほど重しがかかる。優れた人もいたが、生真面目すぎるとあちこちからの重しがどんどん増える。動けた働けた別世界も見られ、様々な人達との出会いがあつた事も幸せである。

触れあつた仲間について、ぼつり

ぼつりと届く悲しい知らせは驚きと共にさみしい限り、人柄を偲びご冥福を祈るのみである。

古希雑感

理事 堀内 幸
(下道出身)



長寿国日本、定年を過ぎて二十年・三十年と続く時間をより充実したものにするために、健康は第一である。私は若い頃から血圧が高いので、「健康維持」を目標に通院している。誰だって病気にはなりたくないし、家族やまわりの人に迷惑をかけたくないと願っている。つまり、健康であることは自分も嬉しいし、家族にとつても幸せなことと言えよう。

童謡の「船頭さん」の一節に「村の渡しは船頭さんは、今年六十のお爺さん、年を取つてもお船を漕ぐときは、元氣いっぱい櫓がしなる」と言う歌詞がある。この童謡が作られた当時は、六十歳は確かに「お爺さん」であつたかも知れないが、当節の六十歳は随分違ふと思う。年齢には、暦年齢・

体力年齢・見かけ年・精神年齢などいろいろあるが、「体力年齢は暦年齢の七掛け」と言う専門家もいる。それに当てはめれば、私の場合は何と四十九歳と言うことになるが、それでは余りにも若すぎるので、九掛け相当の六十三歳くらいであろうか。

私が通院しているクリニックは、歩いて六百歩程度、毎日の散歩コースにも入っている。月に一度診察を受け、薬をもらっている。そのクリニックの待合室は、開院と同時にほぼ満室となり、わいわい・がやがや。多くは近所の高齢者で、私より先輩格の女性が圧倒的に多い。「あつち

が痛い。こつちも痛い。」「だるい。」「元氣が出ない」など、他愛もな話題で賑やかそのものである。仲間の一人の顔が見えないと「あの人のこのころ見えないが、病気になつたのかな」など落語を聞いているような一幕もあつたりする。健康でない通院もできないと、考えさせられる。

話はかわるが、先日(十月五日)久方ぶりに歌謡コンサートを見ての帰りのことである。JR駅から自宅までは徒歩で二十五分程度だが、三年程前から狭路に対応できる小型の循環バスが導入された。私も「敬老特別乗車証」を交付をされているので、たまには乗ってみようと午後七時頃バスの発着所に行つてみた。ここには三人掛けの椅子が三セットあ

り、九名まで座れる。私が到着したときには先発のバスが出たばかりで、乗り遅れたのか幼児二人を連れられた若い母親が三人掛けの椅子の一つを占拠しているように見えた。手荷物を抱えた母親は中央の椅子に、幼児は左側の椅子に二人で、右側の椅子には黒色のリュックサックが置かれていた。私は空いている椅子に腰掛け十分後のバスを待っていた。今日は乗客が少ないのかなと思っていたところ、JR駅側から十数名の私より先輩と思われる女性が大声で話しながら集まってきた。当然座るには限度があり椅子の譲り合いとなった。結果的には半数の者は立ったままでのバス待ちの状況となった。

その内、誰とはなしに、子ども連れの母親に視線を向け「今の若い者は無神経。」「常識がない。」「荷物を下に置けば一人座れる」などと聞こえよがしに批判的な会話が始まった。そして、仲間の一人はリュックの椅子の傍まで寄って座る動作までする有様。

そうこうしている間に乗客も増え、バスも定刻通りに入って来た。乗車準備態勢になったその時、六十歳位の男性が缶ビールを片手に飲みながら小走りやっ来て来た。そして「グットタイミング」と言いながら、椅子のリュックを左肩に掛けバスに乗り込んだ。バスは満車状態で発車となった。

先ほどのご年配の女性方の「この道路工事は何日までやっているんだ。車が混んで困る。」「国道に出る時信号待ちが長い。」「バスが小さいから皆が座れない」など、全く何もなかったかのような元氣な会話を耳にしながら、自宅近くのバス停で下車し帰宅した。さて、バス待ち中の子連れの母親は終始平然としていた。臨席のリュックサックは別人の物だったからである。このことを私を含めて他の者が知ったのは、バスに乗車する寸前であった。

前記のクリニックスの情景とバス発着所の情景を比べてみて、元氣な高齢者の会話にかわりはないが、物事の判断の難しさと慎み深い言動のあり方の大切さを実感させられた。インターネット社会となり、世界で起こったことが瞬時に伝達され、時代も大きく変化し、若者の考え方も変わって来ている。技術も進歩し、ガソリンを使わない自動車の時代が直ぐそこまで来てもある。自然界の現象も変化し、この先の世の中の変化を全く予想も出来ない。しかし、どんな世になろうと「健康に勝る宝なし」の格言は変わらなれど、健康で、他人を気遣い、かつ迷惑を掛けないよう心していきたいと考える昨今である。

同級会万年幹事

の呟き

大日向出身 大久保治夫



平成元年に始まった高校の同級会は今年で二二回目、毎年九月の第二の土・日であったが現役の人が少なくなつた60才過ぎから、日・月曜日の開催となった。

上田松尾高校の最後の卒業生とあつて「松尾」の名称にこだわりを持ち必ず使っている。また、56期の卒業と8組のゴロをあわせ「いろは会」と称している。

今年も9月12・13日に横島君の希望で「あずまや高原ホテル」(2回目)にて開催された。「夫人同伴OKです」とお知らせしたところ、4組がご夫妻で参加され総勢22名。懇親会は例年になく華やか(?)で楽しい会となった。

残念なことは恩師の丸山先生が体調を崩され入院され欠席されたこと

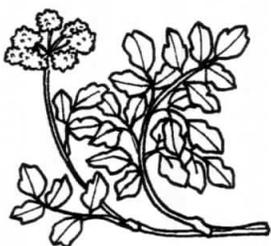
であった。

初日は「菅平サングリーン」でマレットゴルフを楽しみ、2日目は「平塚らいてふの家」と「信綱寺」を見学。昼食後解散。

私と横島君が代表で恩師のお見舞いに行ったところ、87才になられた先生は看護師さんの声を聞くだけで名前を言い当てる。長年教職にあつた性(さが)が身に付いていて、少々ボケが始まっているのではと聞かされていた二人は、安心するやら驚かされるやら。

この報告を横島君に書いてもらい、当日撮った先生の写真をクラスメイトに送った。写真を見て安心したとの連絡が寄せられたことは云うまでもない。と、同時に来年の会場は何処になるのかとせつかな者もいる始末。それだけ我々クラスの結びつきは堅い。

毎回のことだが出欠の返信をすぐにくれる人。締切日になつても来ない人。部屋の予約と関連するのでヤキモキ。万年幹事の私としてはあと何年頭を悩ませ続けられるだろうか



稲倉の棚田の

お米作りに挑戦

顧問 中島正江

(戸沢出身)



今年の総会の席で菅平出身の宮崎さん、「忙しかったよ」と云っていたので何に忙しかったのってお聞きしたら、「稲倉の棚田の田んぼ3枚借りてお米作りしているんです。きのう田植えを終わったところです。」との事。

それって誰でも貸してもらえらるのってお聞きしたら、「誰でもいいですよ。」との事。じゃ私もやりたいと云って、今年は宮崎さんの田んぼを体験して、来年から始めようと思っていたら、行ってみるといきなり「はいここですよ」と2枚田んぼが用意されていました。

ようし、頑張ってみようと家族一同で決め、草刈り、そして稲刈り、主人も子供も初めて、束ねるのは私

一人、《鎌》の使い方も子供は知りません。その指導から：一枚は何とか機械で出来たけれど、一枚はやく30坪、3人で手で刈取り、《はだし》になり頑張りました。

はげかけもみな初めて：約60坪の田んぼのはげかけまで終わったのは午後4時頃、町の責任者とおじさんの二人に「ねえやん、良く出来たなえ、指導がとても良かっただに」ってほめられました。

次は一週間おいて脱穀、籾にし、一部精米して、残りは籾のまま持って帰ってきました。

約120kg、約2俵だそうです。知り合いに新米を配りまくりましたら、とてもおいしいとの事で、大変喜ばれました。お米屋さんにもほめられました。

標高800m、粘土の土がとても良いんだそうです。東京の仲間つくりをしてまして、参加する人増えました。

皆さんも如何ですか、お米作りしましょうよ。詳しくは中島まで、お待ちしております。

子供、孫も連れてふる里へ行こう！子供と一緒に土にまみれての農業体験をさせてあげましょう！



追悼

理事 武捨衛人

(中組出身)



つい最近まで科学好き、スポーツ好きで暇さえあれば本を読んでいるか、スポーツに汗を流しているド田舎の少年だったような気がします。私もいつの間にか後期高齢者の仲間入りを果たしてしまいました。

私の少年時代を温かく包んでくれた我が家の七人の構成メンバーも60年を経過した現在では、祖母・父・妹・母・弟の5人があちらに召されて、こちらは3歳年上の姉と二人きりになってしまい、折に触れて人の世のはかなさを実感させられております。

私は家族をはじめ、教えを受けた諸先生方・諸先輩・地域や学校そして職場や仕事で交流した多くの人々に恵まれ、支えられ、今までの人生をいつも前向きに明るく楽しく過ごすことができた感謝の気持ちを強く抱いております。

そんな中で今年失った一人の先輩と一人の友人に心から追悼の言葉を捧げたいと思います。

そのお一人は元理事の飯嶋義道さん、通称《ようちゃん》です。同じ中組出身の傍陽中学時代からの心優しい先輩で、二つ違いでしたが共に小泉蚕業高校に学び、私が大学時代にアルバイト講師として住み込んだ東京下町の学習塾『誠心塾』でも一年間同居しました。ようちゃんは会社員でしたが、郷里の中組出身の叔父さんが塾長の誠心塾に居候???

そのようちゃんには当時唯一の娯楽だった映画の招待券を何度ももらい、活気に満ちていた下町の映画館に足を運んだことを昨日のこのように想い出します。そしてこの誠心塾には千恵子さん、通明君など年齢の近い塾長さんの家族や、郷里や高校の先輩が何人も同居していて、ふるさと言葉が飛び交う夢のような空間でもありました。私はここで純真な下町の中学生や高校生と学び、交流しながらはたちの一年間を過しました。

ようちゃんは東京真田町の会の理事として活躍され、親睦旅行にも積極的に参加され、会の行事を盛り上げて下さいました。また私が現役を退くとすぐに声をかけて、理事に推挙して頂き、お陰様でそれ以来『日

本ダボス『しらかば通信』の編集に携わり、趣味のパソコンをなかば仕事のように堂々といじり続けております。

平成二〇年秋のふるさと訪問旅行が最後のお付き合いとなりましたが、中学生の頃から古希過ぎまでずっと後輩を心にかけて、見守る姿勢でいられた『ようちゃん』の優しいまなざしが今も浮かんできます。

平成二二年四月十一日逝去 享年七六歳、心から冥福をお祈りいたします。

ほかの一人は大久保正寿さん、一五坪程の農場の共同経営者でした。大久保さんが栽培担当、私が【収穫・消費】担当で二年近いお付き合いでした。大久保さんは大日向出身、大久保治夫前編集長の実兄で塩沢元会長と同級生、走ることと野球を得意とするスポーツマンで農作物の栽培を趣味とされていましたが、ご自宅の近くにも農場がある由で、共同経営の農場の収穫・消費はもっぱら私の担当でした。

大久保さんは総会・マレットゴルフ・親睦旅行などに積極的に参加され真田町の会の諸行事を盛り上げて下さいました。また奥様がマレットゴルフの名手で真田町の会のマレットゴルフの会には毎回参加され、活躍されていましたが、体調を崩されて去年春にご主人を残して先立たれたばかりでした。

たばかりでした。

十月十三日、ふる里の先輩堀内年治さんの松茸山(傍陽大倉)で、生まれて初めての松茸狩りで獲得した松茸の数本をおすそ分けに、お宅をお訪ねした時は外出中でお会いできませんでした。

この日に外出先で脳血管の疾患で倒れ、所沢の防衛医大附属病院に緊急入院され、そこでリハビリ中の転倒事故で400cc余りの出血血を開頭手術で除去し、一時は快方に向かわれた由でしたが十月二十三日、お元気ならば大久保さんも出場されることになっていた、東京真田町の会のマレットゴルフ大会の日の早朝の訃報でした。

大久保さん！私に残された共同経営の農場には、今は形見となつてしまった白菜・大根・ほうれん草がみごとに出来栄えて一番おいしい初冬の収穫時期を迎えております。そして、農場の片隅で自販機のコーヒを飲みながら地主の澤田さんと三人で、世間話を交わした日々が走馬灯のように甦ってきます。

平成二十二年十月二十三日逝去、享年七十四才 心からご冥福をお祈りいたします。



会員の皆様の
近況報告抜粋
(敬称略・出身区・旧姓)

1 荒木廣之(真田)

会員の皆様におかれましてはお元氣のことと拝察いたします。健康で奉仕し社会貢献が幾許か続けられたなら幸せです。両親、隣人に感謝しつつ、惻隱の情を念頭に、前向きに日々が送れば幸せは最高です。不肖十年前程から早朝ウォーキングを趣味として(全道程)南極を折り返し帰国後、北極点に夢を馳せて70、80才は働き盛り…と89才を迎えて未だ、まだ現役、社会貢献に励んでいます。皆々様の益々のご健勝をご祈念申し上げます。

2 飯島啓三(中組)

毎度、お世話様です。私は日々此の口をお待ちしております。皆様とお会い出来るのも皆様のおかげと思っております。

3 飯嶋義道(中組)

義道の長男義幸です。父義道は平成22年4月1日永眠致しました。享年76歳。

東京真田町の会の皆様には大変お世話になったことと思います。総会、懇親会等の話をよく聞いておりました。東京真田町の会の皆様に宜しくお伝え下さい。

4 伊東すみ江(菅平・今井)

今回は都合が悪く欠席します。い

つも大変お世話になっております。

5 石巻哲夫(曲尾)

おかげ様にて元氣でやっております。

6 石巻伸夫(曲尾)

いつも(案内有難)ございます。都合により今年も欠席いたします。同郷の方々のますますのご繁栄を祈ります。

7 小坂井やえ子(曲尾・石巻)

一案内ありがとございます。真田町の会のご盛会をお祈りいたします。

8 金子和子(大日向・一之瀬)

御連絡頂きありがとございます。なかなか参加できずしております。知り合いの方が少なく寂しい限りです。入れて頂き3年目ですが、会報はなつかしく読ませて頂きました。後日年会費を送らせて頂きますが、これで退会します。

9 柴田小夜子(菅平・市村)

いつもお世話様です。10日は出席できず申し訳ありません。宜しくお願いたします。

10 清水民子(曲尾・上原)

返信が遅くなり申し訳ございません。皆様宜しくお伝え下さい。会費は振り込みさせて頂きました。

11 内海辰三(大庭)

老人は若い人々の一層の活躍を期待しております。真田町の会の一層の発展を祈ります。

12 内海宏光(大庭)

4月17日(土)、昨夜から降り続いた雪、今朝の積雪30cm、41年

ぶりの遅雪との事。山も田畑も一面の銀世界、悲しいかな春の淡雪たちまち溶けてしまいました。

13 大井啓二(真田)
21年度で退会させていただきました。学校の桜も蕾が少々膨らんだべり。それでも晴天が三日も続けば春は駆け足で訪れます。

14 大久保慶次郎(渋谷)
長男のところに転居しました。リハビリ中です。皆さんによろしく。

15 大久保今朝和(真田)
大久保今朝和は平成21年12月24日、75歳で永眠いたしましたので退会いたします。お世話になりました。(奥様信)

16 荻原政治(四口市)
マレットゴルフの予定日は5月9日から5月8日に変更いたします(地元の大会の為)。いつも参加者には連絡済です。よろしく。

17 荻原 學(真田)
総会には毎回失礼いたし、すみません。故郷の様々なホットニュース嬉しく拝見。取材など本当にご苦労様です。

18 若井泰子(中原・荻原)
寒暖の差が激しかった今年もようやく春本番を感じられる頃となりました。役員の皆様いつもお世話になります。ありがとうございます。今回は都合により欠席させていただきますが、23回が盛会であります。

よつに願っております。

19 清水甫子(田中・金子)
御連絡ありがとうございます。皆様にも又お逢い出来ることたのしみです。よろしく。

20 神田幸雄(横尾)
仕事、運動等、元気に過ごしております。昨年初参加し、同級生及び横尾区の皆さんにお会い出来、有意義なひと時を過ごすさせて頂きました。今年も楽しみにしております。

21 中村洋子(田中・木下)
役員の皆様、いつも有難うございます。お陰様で、今年も一年に一度のなつかしい、お顔にお会いする事が出来ます。たくさんのお顔に会い、お顔に会える事を楽しみにいたします。よろしくお願いたします。

22 久保新一(角間)
今年70才になります。まだ現役で働いていますが、昨年年末、親戚、知人、友人が相次いで亡くなり、寂しい想いです。ご盛会を祈ります。

23 倉島今朝二(角間)
役員の皆様にはいつもお世話になっております。今年もごんな出逢いがあるか楽しみにしております。

24 倉島芳三(角間)
老齡の為真田町の会を脱会させて頂きます。長い間ありがとうございました。

25 秋葉隆雄(入軒井沢・小林)
何時もしらかは通信有難うございます。なつかしさでいつも読ませていただいています。会の益々の隆盛を祈念いたします。

26 倉持信郎(入軒井沢・小林)
体調不良のため、皆様にご迷惑をおかけするといけないので欠席と致します。

27 小山末江(傍陽)
役員の皆様、ご苦労様です。都合により欠席いたします。

28 坂口英一(真田)
2年連続の欠席で誠に申し訳ありません。皆様によりよくお伝えください。

29 小平京子(横道・坂口)
ご連絡ありがとうございます。都合が悪く欠席しますが、会がご盛況でありますことをお祈り申し上げます。

30 大代今朝幸(菅平・坂口)
いつもふる里の報告をありがとうございます。都合が悪く欠席させていただきます。

31 坂口武久(下原)
3月末逝去いたしました。ありがとうございます。(奥様信)

32 鎌田方子(三島平・坂口)
遅くなり申し訳ありません。

33 小林公江(大口向・塩沢)
役員の皆様何時も有難うございます。今回は所用の為欠席します。皆様によりよくお伝えください。会の発展と皆様のご健康をお祈り申し上げます。

34 塩沢英二(大口向)
いつも年末には、内容の豊富な「会報」をお送り頂き、有難う御座います。

真田の郷の「味わい深い記事」及び最近の情報等が盛り込まれておりまして、興味深く拝読しております。東京真田町の会の発展を願っております。

35 山口久子(曲尾・清水)
真田町会様、永い間、連絡頂いて本当に有難うございました。都合で今回より退会させて頂きたいと思っております。関係者の皆様、永い間大変お世話になりました。真田町会のご発展、皆様のご多幸をお祈り申し上げます。

36 清水征夫(中原)
いつもお世話様です。変わらず元気で仕事を続ける中、年に数回帰省し、烏帽子岳を仰ぎ見る時又、パワーを貰います。

37 白井健次(曲尾)
所用により欠席させていただきます。

38 杉崎壽三(菅平)
「ごさたを致しております。当日はどうしても出席ができません。皆様のご健康と会の益々の発展をお祈り申し上げます。

39 杉村房枝(秋・落回)
御案内を賜わりまして誠にありがとうございます。お世話様になります。申し訳ございませんが、この度は出かれます予定が有りますので欠席させていただきます。

40 鈴木郁夫(横尾)
オートマタ(ヨーロッパ)からくり人形作り、まだまだやっております。

41 鈴木邦子(横尾)

一人でも多くの知り合いの方々とお会いしたいと楽しみに致しております。

42 関谷トシ子(沢)

第23回の総会の御開催おめでとうございます。ふるさとからも「来賓のご出席をいただいているご盛会を心よりお祝い申し上げます。私も出席したいところですが体調が良くないので欠席させて頂きます。会員の皆様方のご健勝を心より「祈念申し上げます。

43 鈴木民子(竹室・高寺)

今年の春は肌寒い日が多かったです。今日は暖かくなりほっとしております。総会の通知をいただきましたが、息子の引っ越しと重なってしまいましたので、大変残念ですが欠席させていただきます。

44 高畑悟郎(大庭)

新住所です。

285-0922 千葉県印旛郡酒々井町中央台1-5-7 クローバーハイツ 102号室

45 田中恒夫(横尾)

大変「苦労様です。昨年十月子供達の所に来ました。

46 中沢欣勇(下横道)

役員の皆様には誠に「苦労様です。感謝申し上げます。年一度の総会は大変楽しみにしております。昔の傍陽時代の生活を思い出し今昔の感を

深め又懐かしんで居ります。

47 成澤今朝信(秋)

古里を離れ、早48年、会に出席するのも大きな楽しみの一つですが、今回は仕事が重なり、申し訳ありません。

48 鳴澤功次(中組)

退会いたします。

49 井出道子(大畑・南條)

盛会をお祈りします。

50 萩原清人(秋)

あいにく米田出張と重なり出席できません。山口さん「ご容赦ください。

51 萩原節子(大庭・花岡)

なんとかやっております。

52 中村エツ子(沢・橋詰)

私、旧姓橋詰エツ子というものです。

50数年も過ぎ去っていますが、会長の実家近くに疎開をしましてお世話になった一人です。塩沢和政さんと同級生で、お逢いして「真田町の会」を知りすめられたのですが、出席させてもらっても知り合いのお顔が見られませんが、削除して頂きたいのでお手紙を出した訳です。いつも連絡ありがとうございます。

53 橋詰圭吾(中組)

地域自治センターだよりの中で堤の御柱祭の記事が目に入り、私の地元中組で幼い頃参加した記憶がよみがえり懐かしく、特に建て御柱の終りに「シモチ」がと言う文字が又特に懐かしい思い出でした。いつも

お世話様です。

54 野村電子(秋・橋詰)

野村勝太郎と同じですのでハガキ代節約してください。

55 花岡孝雄(横尾)

昨年初めて参加させて頂き、楽しいひと時を過ごさせて頂きました。一年もあつと言つて頂きますね。今年もよろしくお祈りいたします。

56 半田喜章(中横道)

今年はお席をと思つていましたが旅行予定と重なつてしまい、残念ですが欠席いたします。盛会をお祈りいたします。

57 半田武男(三島平)

少々体調不良の為欠席します。御盛会を御祈念申し上げます。

58 半田幸弘(中横道)

「高配常々お示し下されありがとうございます。高配申上げます。今回は必ず出席いたします。よろしく。本年86才です。

59 勝田昭子(田中・堀内)

役員さん、幹事さん「くろくさまです。私は80才がすぎましたので電車の切符を買うにもオボツカない始末です。チョット打ちつけて出られるカードも無しです。でも頑張つて市ヶ谷駅までは出かけようと思つてみます。

60 上ノ山勝信(三島平・堀内)

幹事さん「苦労様です。又よろしくお祈り致します。

61 井上かよ(田中・堀内)

すっかり葉桜となりました。寒暖の激しい今春、会長様はじめ役員の皆様「苦労様です。今回もお世話になりますので宜しくお祈り致します。

62 木南和世(中横道・堀内)

病気の為欠席いたします。皆様によろしくの事です。「主人信

63 所 けい(中横道・堀内)

故里を思い出す雑木山を借景にして居住すること50年。「春雪の舞つや色めく雑木山」鶯の艶だつ枝の揺すりかな「啓蟄や小さく生きているの齢」など云いながらも、宣伝はひたすら故里になつていきます。

64 堀井けい子(田中・堀内)

役員の方々いつも「苦労様です。体調が悪く入院中のため出席できませんのでよろしくお祈りします。

65 久野けい志(中横道・堀内)

何時もお世話様になります。今年こそと希望して居りましたが、三月末、足にケガをして病院通いをするので欠席致します。コメントナイン。

66 堀内照美(上横道)

いつもお世話様です。当日は仕事絡みで東京を離れています。御盛会を御祈念申し上げます。

67 堀内寿美(上横道)

宜しくお祈り致します。お手数様です。

68 堀内秀夫(下横道)

車いすから解放されたくて、4月12日にパーズメーカーの手術を受

けましたが体が思うようにまだ動きません。リハビリに全力で取り組んでいます。次回は元気に参加したいです。

69 堀内正幸(二島平)

夫正幸は病氣療養中のところ、2月24日に亡くなりました。真田町の会も脱会いたします。お世話になりました。東京真田町の会の発展をお祈り申し上げます。妻より

70 堀内幹本(上横道)

からくり人形芝居に結構忙しい日々を送っています。今年の3月6日には新しく「助六由縁江戸桜」の舞台を復元し初披露しました。江戸文化の名残を持った「からくり人形芝居」を是非桐生まで見に来て下さい。毎月第一土曜日が上演日になっています。

71 小林正子(下横道・堀内)

皆様お元気でいらつしゃいますか?この日はどつしても外せない用事があり欠席させて頂きます。皆様によろしくお伝え下さい。

72 堀内 幸(下横道)

会長はじめ各役員の皆様には大変お世話になっております。総会には出席したいと楽しみにしております。

73 岩崎みち子(菅平・正木)

大変お世話になります。

74 松尾 昭(真田)

お手数いただきましたが、過日本人の体調よろしくないので退会お願

い申し出ております。悪しからずお世話様になりました。ありがとうございます。

75 丸山廣義(曲尾)

今年も町会の行事と重なり欠席させて頂いていただきます。皆様のお顔を見る事が出来ず残念です。御盛会を祈ります。

76 三井 毅(大庭)

設立当初より大変お世話になって参りましたが体調不良のため、これを機に退会させて頂きます。未永く会の発展を祈念しております。ほんとうにありがとうございました。

77 三井中子(中組)

誠に勝手ながら退会を致します。長い事大変有難うございました。会長、事務局の皆様には大変お世話様でした。今後の活動を期待しております。本当に長い間有難うございました。

78 宮崎十人重(菅平)

お世話様です。よろしくお願います。

79 宮下毅十(真田)

都合悪く欠席致すです。いつも通信を送って頂きありがとうございます。今年も母の五年祭になります。

80 吉川栄子(中組・武捨)

元気で楽しく暮らしております。

81 武捨昌夫(中組)

4月18日は日本一小さな御柱祭りに行ってきます。

82 八木五郎(中横道)

本人は元氣しますが身内に不幸あり、法事が重なります。晩秋の渋温泉には行くことと思います。直しく!

83 佐藤みえ子(真田・矢島)

役員の皆様いつもお世話様です。返信が遅れて申し訳ありません。今年も皆様方にお逢い致したく出席させて頂きます。よろしくお願います。

84 柳沢郁政(戸沢)

2月にサイパンへ行ってきました。バンザイクリフには善光寺の長野県人慰霊碑があり、お参りしました若者にはダイビングなどで人気があり平和な島でした。

85 柳沢喜三郎(秋)

都合が悪く残念ながら欠席です。「盛会を祈念申し上げます。よろしくお願致します。(5月23日、御殿場市小山町長野県人会の役員会)

86 松井志江(秋・柳沢)

年を重ねて体の衰えを感じる今日此の頃ですが、皆様にお会い出来ます事を楽しみにして居ります。

87 柳沢俊美(戸沢)

いつも「案内状を頂きありがとうございます。」とございます。当口都合が悪く欠席します。

88 佐藤江秋・柳沢

久しぶりに皆様とお逢い出来そうです。どうぞよろしくお願致します。

89 柳澤 實(秋)

今年も帰郷の機会が多く、不幸あり、披露宴あり、一族の懇親会あり。一族の所帯も世代が替り80有余年生きた我が歴史を想わずには居られない。

90 柳澤保治(真田)

欠席続きで恐縮です。「盛会を祈ります。」

91 北澤りん(横道・柳沢)

いつも日本タボスを送っていたいただき感謝しています。タボスを見てなつかしく故里を想い出しています。

92 深町共栄(田中・山岸)

新入会員として杉村房江さんを紹介致します。住所は 〒333-21000 1 川口市朝日3-1-3-5 Tel 048-225-11511 出身地は傍陽秋です。(元実相院)

93 椎名津男(横沢・山口)

皆様とお逢い出来る事を楽しみにしております。会長及び役員の皆様いつもありがとうございます。

94 山口義弘(真田)

5月は業界の用事が多く出席不可、残念。仕事は飲食業、現役で頑張っています。皆様もお元気で。

95 山崎敏男(入野井沢)

しらかば通信ありがとうございます。堤の御柱祭は子供の頃よく見に行きました。5月23日はサイクリングクラブの大会があり参加出来ません。元氣です。御盛会をお祈り致します。

96 安田美智子(入野井沢・山宮)

楽しみにしておりましたが、行事が重なってしまい、残念ですが欠席します。

97 浅水みち子(入野井沢・山宮)
会長さんはじめ役員の皆様いつも有難うございます。あいにく予定が入ってしまいました出席できません。

98 大橋けい子(菅平・山本)
役員の皆様、いつもありがとうございます。懐かしい皆様にお逢いする口を楽しみにしております。

99 横沢武久(大畑)
いつも御案内ありがとうございます。所用のため欠席させていただきました。元気に毎日を過ごしておりますので、皆様によろしくお伝えください。

100 横沢義雄(大畑)
昨年は欠席しましたので今年はお席いたします。

101 若林正春(大洞)
病気になる療養中の為、残念ですが欠席させていただきます。

102 若林 豊(赤井)
脱会届

大変申し訳ありませんが年齢的に諸行事に参加出来ませんので脱会をお願いいたします。大変お世話になりました。



《“生のふるさと便り”をお楽しみください》

インターネットの <http://www.city.ueda.nagano.jp> で上田市役所のホームページを開き、トップページ左側最上段の総合案内項で「広報」をクリックし、開いた画面で中央の地域自治センターだより「さなだ」の項に進むと、平成20年からのバックナンバーを見る事ができます。クリックで開き中央にある全頁写真をダブルクリックすると、画面いっぱいの拡大で見ることができます。下図は最新の11月16日号の1頁目の一部です。お暇な折に訪れてみてください。ここでは《トップページ》のほか、《カメラニュース(2頁)》《真田地域協議会だより(3頁)》《公民館だより(4頁)》と盛り沢山の、ふるさとのホットニュースにリアルタイムで接する事ができます。



真田図書館完成 地域の交流拠点として

待望の真田図書館がいよいよ11月19日(金)に開館します。

当日の午前9時30分にテープカットを行い開館となります。地域の皆さんにもご参加いただき一緒に祝いさせていただきますようお願いいたします。郷土資料コーナーや親子でゆったりと過ごせる児童図書コーナー、また会議・イベントなどで使える多目的ルームやどなたでもご利用可能な学習室もあります。読書や調べもの、学習、交流の場として、大勢の方々のご利用をお待ちしています。

図書館引越しの際には大勢のボランティア・中学生のみなさんにご協力いただきありがとうございました。



図書の引越し作業

10月2日、真田図書館サポーターの会や真田中学生ボランティアの皆さん(延べ130人)は、旧真田図書室の図書25,000冊を真田図書館に移動しました。

【概要】

- 蔵書数 32,000冊
- 開館時間
 - 火曜～金曜…午前9時から午後6時30分まで
 - 土曜・日曜…午前9時から午後5時まで
- 休館日 毎週月曜、月末整理日、国民の休日、年末年始

真田図書館 上田市真田町長7178-1 有線2003 TEL72-8080

東京真田町の会の今後益々の 御発展を祈念申し上げます

長野県上田市中央西1-6-14

堀内年治



傍陽の大倉で檜と杉の植林を35年続けています。山の四季は季節感に満ち溢れ、空気はおいしく、パワーに満ちています。

～会員消息～ (敬称略)

<入会>

杉村 房枝 〒332-0001 埼玉県川口市朝日 3-13-5 (傍陽・萩)

<住所変更>

佐藤ムネ子 〒113-0021 東京都文京区本駒込 5-44-4 ベルゾーネミツワ 203 (長・真田)

<退会>

長い間、会に御協力下さり有難うございました。くれぐれも健康にご留意下さい。

三井 毅

<逝去>

会員一同、心よりご冥福をお祈り致します。

三井 周 長屋 京子 飯嶋 義道 大久保正寿

次回総会の予告

平成23年の総会、懇親会は5月24日(日)、アルカディア市ヶ谷(私学大館)で開催の予定です。大勢の会員の皆様のご出席を頂きますようお願い申し上げます。詳しくは4月に発行の「しらかば通信」第15号でお知らせいたします。

年会費納入のお願い

平成22年度の年会費千円を未納の方は、同封の郵便振替用紙にてお振込み下さい。振り込み料は無料です。よろしくお願い致します。

広告御礼

日本ダボス第23号の発行にあたり広告をお願い致しましたところ、大勢の皆様のご協力を頂きました。大変有難く、厚く御礼申し上げます。

新会員ご紹介のお願い

会員の皆様にはいつも会の運営にご協力頂き誠に有難うございます。会員相互の出会いと親睦、そしてふるさと真田町との交流の親密化を目的に誕生した東京真田町の会も、一二年余りの歴史を刻み先輩役員のご努力、会員の皆様のご協力、そして旧真田町並びに新生上田市当局のご支援により一人前の同郷会に成長しつつあり、ご同慶の至りでございます。

この東京真田町の会が更に充実し、発展し続けるためには会員の増加が何にもまして重要と思われまふ。皆様の友人、知人の中に東京真田町の会の会員に推薦できる方が居られましたら、会長または役員まで是非ご一報頂きたく、よろしくお願い申し上げます。

連絡先 山口 元彦

〒184-0012 東京都小金井市中町二一九一六

☎ 042-383-6555 FAX番号 03-3815-3341

☎ 03-3815-3344

平成21年度 決算報告書

平成21年4月1日～平成22年3月31日現在

収入の部			支出の部		
科目	予算	決算	科目	予算	決算
通常年会費収入	400,000	342,000	総会費	750,000	545,045
総会懇親会費収入	700,000	475,000	会報発行費	500,000	524,000
上田市補助金	300,000	300,000	事業費	300,000	50,000
広告収入	400,000	275,000	事務通信費	250,000	192,066
寄付金等収入	100,000	128,000	印刷費	50,000	28,800
利息等雑収入	24,397	184	会議費	150,000	71,440
			渉外費	100,000	79,000
			交通費	100,000	85,940
			雑費・手数料	50,000	27,805
			予備	50,000	0
当期収入合計	1,924,397	1,520,184	当期支出合計	2,300,000	1,604,091
前年繰越額	375,603	375,603	次期繰越額		291,696
合計	2,300,000	1,895,787	合計	2,300,000	1,895,787

上記の通り収支決算報告いたします。平成22年3月31日 会計 堀内 寿美 印
 上記の決算報告書は適正かつ真実であるものと認めます。 監事 深町 共栄 印
 監事 堀内 幸 印

平成22年度事業計画

- ① 第23回総会及び懇親会の開催(平成22年5月23日)
- ② 会報「日本ダボス」第23号の発行
- ③ 広報紙「しらかば通信」の発行
- ④ ホームページの運営
- ⑤ 会員旅行会、ゴルフ会、マレットゴルフ会等会員相互の親睦をはかる行事の実施
- ⑥ 真田地域との交流促進のため、ふるさと訪問、ふるさと特産品の宅配協力、各種文化・スポーツ行事の実施と参加
- ⑦ その他

平成22年度収支予算

平成22年4月1日～平成23年3月31日

収入の部		支出の部	
科目	金額	科目	金額
通常年会費収入	400,000	総会懇親会費	650,000
総会懇親会費収入	600,000	会報発行費	550,000
上田市補助金	300,000	事業費	200,000
広告収入	350,000	事務通信費	150,000
寄付金等収入	50,000	印刷費	50,000
利息等雑収入	8,304	会議費	100,000
		渉外費	100,000
		交通費	100,000
		雑費・手数料	50,000
前年度繰越金	291,696	予備費	50,000
収入合計	2,000,000	支出合計	2,000,000

「東京真田町の会役員名簿」

(平成22年7月1日現在)

職名	氏名
会長	山口元彦
副会長	飯島慶三郎 柴田小夜子 鈴木邦子
理事	監事 深町共栄 堀内 幸
	事務局長 (鈴木副会長兼務)
	会計理事 金子 誠
	荻原啓治 古市 礼子 堀内寿美 堀内 政 武捨衛人
顧問	小林孝雄 清水清晴 三井芳郎 塩沢和政 中島正江

ふるさとで聴いたあんな歌こんな唄

・・・昭和21・2年・・・

東京の花売娘 岡 晴夫

青い芽を吹く 柳の辻に
花を召しませ 召しませ花を
どこか寂しい 憂いを含む
瞳いじらし あの笑くぼ
ああ東京の 花売娘

夢を見るよに 花籠抱いて
花を召しませ 召しませ花を
小首かしげりゃ 広重えがく
月も新たな 春の宵
ああ東京の 花売娘

リンゴの唄 かえり船 悲しき竹笛
啼くな小嶋よ 夜霧のブルース
港が見える丘 夜のプラットホーム
長崎エレジー 夢淡き東京
とんがり帽子 懐かしのブルース
誰か夢なき 泪の乾杯 山小舎の灯

・・・昭和23・4年・・・

月よりの使者 竹山逸郎/藤原涼子

白樺ゆれる 高原に
りんどう咲いて 恋を知る
男の胸の 切なさを
啼け啼け山鳩 幾声も

幾春秋を さ迷えど
まことの縁(えにし) 結ぶ日は
月よりの使者 思い出の
りんどう抱いて 来るという

異国の丘 流れの旅路
三百六十五夜 湯の町エレジー
憧れのハワイ航路 君待てども
薔薇を召しませ 銀座カンカン娘
青い山脈 玄海ブルース
麗人草の歌 長崎の鐘
かりそめの恋 悲しき口笛

・・・昭和25・6年・・・

あの丘越えて 美空ひばり

山の牧場の 夕暮に
雁が飛んでる ただ一羽
私もひとり ただひとり
馬(アオ)の背中に 眼をさまし
ヤッホーヤッホー

山の湖 白樺の
影が揺らめく 静けさよ
私はひとり ただひとり
恋しい人の 名を呼んで
ヤッホーヤッホー

東京キッド 白い花の咲く頃
ダンスパーティの夜 山のかなた
越後獅子の唄 私は街の子
江の島エレジー 東京の椿姫
連絡船の唄 上海帰りのリル
ひばりの花売娘 高原の駅よさようなら
ニコライの鐘 あさみの歌
牧場の花嫁さん さすらいの旅路

・・・昭和27・8年・・・

別れの磯千鳥 近江俊郎

逢うが別れの はじめとは
知らぬ私じゃ ないけれど
せつなく残る この思い
知っているのは 磯千鳥

泣いてくれるな そよ風よ
希望抱いた あの人の
晴れ笑顔が 何故悲し
沖のかもめも 涙声

赤いランプの終列車 リンゴ追分
あこがれの郵便馬車 丘は花盛り
落葉しぐれ 街のサンドイッチマン
あゝモンテパの夜は更けて
泪の夜汽車 さすらいの船歌 この世の花
待ちましよう 花の三度笠
雨降る街角 山のけむり 毬藻の歌

・・・昭和29・30年・・・

別れの一本杉 春日八郎

泣けた 泣けた
こらえきれずに 泣けたっけ
あの娘と別れた哀しさに
山のかけすも鳴いていた
一本杉の
石の地藏さんのよ 村はずれ

呼んで 呼んで
そつと月夜にや 呼んでみた
嫁にもゆかずにこの俺の
帰りひたすら待っている
あの娘はいくつ
とうに二十(はたち)はよ 過ぎたらに

哀愁日記 あなたと共に ひばりのマドロ
スさん あの日の船はもう来ない
高原列車は行く おんな船頭唄
次男坊鴉 この世の花 高原の宿
親子船歌 小島通いの郵便船
かえりの港 月がとつても青いから
あの娘が泣いてる波止場

・・・昭和31・2年・・・

星空に両手を 島倉千代子/守屋 浩

(男女) 星空に 両手をあげて
この指を 星で飾ろう
(男) 君にかわいい あの星を
(女) あなたに青い あの星を
(男女) 宝石なんて なくつても
こころは夢の エメラルド
星空に 両手をあげて
子の指を 星で飾ろうよ

(男女) 星空に 両手をあげて
想い出を そつとさがそう
(女) 消えた花火が あの星は
(男) 母さんの歌 あの星は
(男女) 幼い頃が ひとつずつ
あんなに遠く 光ってる
星空に 両手をあげて
想い出を そつとさがそうよ

哀愁の町に霧が降る 哀愁列車 東京の人 好き
だった 東京の人さようなら 夜霧の第二国道
俺はお前に弱いんだ ここに幸あり 早く帰って
こ リンゴ村から 柿の木坂の家 チャンキキお
けさ 東京のバスガール 星空に両手を
港町十三番地 有楽町で逢いましょう

・・・昭和33・4年・・・

東京ナイトクラブ フランク永井/松尾和子

(男) なぜ泣くの まつげがぬれてる
(女) 好きになったの もっと抱いて
(男) 鳴かずに踊ろうよ もう夜もおそい
(女) 私が好きだと 好きだと言って
(男) フロアは青く ほの暗い
(女) とても素敵な
(男女) 東京ナイト・クラブ

(女) もう私 欲しくはないのね
(男) とても可愛い 逢いたかった
(女) 男は気まぐれ そのときだけね
(男) うるさい男と 言われたくない
(女) どなたの好み このタイは
(男) やくのはおよしよ
(男女) 東京ナイト・クラブ

からたち日記 古城
花笠道中 羽田発七時五十分
泣かないで 再会
南国土佐を後にして お別れ公衆電話

・・・昭和35・6年・・・

はたちの詩集 白根一男

花のいのちの 短さを
初めて知った 哀しさに
青いインクも 滲んでる
めくれば はらはら
涙こぼれる はたちの詩集

忘りよとすれば なおさらに
せつなくうかぶ 面影よ
青い表紙も 色褪せて
思い出 ばかりが
しみて哀しい はたちの詩集

誰よりも君を愛す 再会
潮来花嫁さん 夜霧の空の終着港
湖 愁 潮来笠 月の法善寺横丁
北上夜曲 銀座の恋の物語
上を向いて歩こう

・・・昭和37・8年・・・

高校三年生 舟木一夫

赤い夕陽が 校舎を染めて
二れの木陰に 弾む声
ああ 高校三年生 ばかり
離れ離れに なるうとも
クラス仲間は いつまでも

泣いた日もある 怨んだことも
思い出すだろ なつかしく
ああ 高校三年生 ばかり
フォーク・ダンスの 手を取れば
甘く匂うよ 黒髪が

赤いハンカチ 江梨子 寒い朝
いつでも夢を 下町の太陽
島のブルース 長崎の女
美しい十代 こんにちは赤ちゃん
東京五輪音頭 夕陽の丘

・・・昭和39・40年・・・
青春の城下町 梶 光夫

流れる雲よ 城山(しろやま)に
のぼれば見える 君の家
灯りが窓に とるまで
見つめていたっけ 逢いたくて
ああ青春の 思い出は
わがふるさとの 城下町

どこでも誰にも 嫁(い)かないと
誓ってくれた 君だもの
故郷(こきょう)に僕が 帰る日を
待っていてくれよ 天守閣
ああ青春の 思い出は
わがふるさとの 城下町

ああ上野駅 霧の中の少女
東京の椿姫 アンコ椿は恋の花
お座敷小唄 東京の灯よいつまでも
十七才は一度だけ 学生時代 涙の連絡船
他人船 わが愛を星に祈りて

・・・昭和41・2年・・・
さよなら列車 都 はるみ

赤いランプが もうこれきりと
啼いた心を またせめる
駄目なのね 駄目なのよ
莚車のベルの 鳴る窓で
あの人が あんなにあんなに手を振る
さよなら列車

どうせいつかは 別れる恋と
言っておかせて 居たけれど
馬鹿なのね 馬鹿なのよ
やっぱり泣けた 夜の駅
呼んだとて 明日から明日から他人ね
さよなら列車

夜霧の慕情 夜霧よ今夜もありがとう
小樽の人よ 逢いたくて逢いたくて
恍惚のブルース ラブユー東京
柳ヶ瀬ブルース こまっちゃう
真赤な太陽 ブルーシャドウ
小指の想い出 お嫁においで

・・・昭和43・4年・・・
今日でお別れ 黒木 恵

今日でお別れね もう逢えない
涙を見せずに いたいけど
信じられないの そのひとこと
あの甘い言葉を ささやいたあなたが
突然さよなら 言えるなんて

最後のタバコに 火をつけましょう
曲がったネクタイ なおさせてね
あなたの背広や 身のまわりに
やさしく気を配る 胸はずむ仕事は
これからどなたが するのかしら

君がすべてさ 霧にむせぶ夜 星影のワルツ
港町・浜町・別れ町 長崎ブルース
君は心の妻だから 好きになった人
抱擁 ブルーライト・ヨコハマ
池袋の夜 ゆうべの秘密 恋の季節
港町ブルース 長崎は今日も雨だった

・・・昭和45・6年・・・
知床旅情 加藤登紀子

知床の岬に はまなすの咲く頃
思い出しておくれ 俺達のことを
飲んで騒いで 丘に登れば
遥か国後に 白夜は明ける

旅の情けか 酔うほどにさまよい
浜に出てみれば 月は照る波の上
今宵こそ君を 抱きしめんと
岩影に寄れば ピリカが笑う

別れの日には来た 羅臼の村にも
君は出て行く 峠を越えて
忘れちゃ嫌だよ 気まぐれ鳥さん
私を泣かすな 白いかもめよ
白いかもめよ

夢は夜ひらく わたしの城下町
よこはま・たそがれ おいらくるさん
また逢う日まで

・・・昭和47・8年・・・
なみだ恋 八代亜紀

夜の新宿 裏通り
肩を寄せあう 通り雨
誰を恨んで 濡れるのか
逢えさせつない 別れがづらい
しのび逢う恋 なみだ恋

夜の新宿 こぼれ花
一緒に暮らす しあわせを
一度は夢に みたけれど
冷たい風が 二人を責める
しのび逢う恋 なみだ恋

瀬戸の花嫁 恋の町札幌
せんせい おまえに
くちなしの花 四季の歌
なみだの掬 ふるさと 夜 空

・・・昭和49・50年～・・・
さだめ川 細川たかし

明日のゆくえ さがしても
この眼に見えぬ さだめ川
あなたの愛の なされるままに
ゆるした夜は 雨でした

二人の恋を 憎むよな
うわさがづらい さだめ川
故郷の町を 逃れる旅は
いずこの山か また海か

すべてを水に 流しては
生きて行けない さだめ川
あなたの愛に つぎの世までも
ついて行きたい わたしです

二人でお酒を 北の宿から
千曲川 昔の名前で出ています
襟裳岬 愛ひとすじ うそ
シクラメンの香り 年下の男の子

編集後記

『日本ダボス第二三号』を本日お届け致します。
最初に貴重な原稿をお寄せいただいた皆様から
御礼を申し上げます。

私たち人類は大昔のある日？樹上の果物を採ろうと
して二本足立ちしたことをきっかけに空いた両手で棒
(道具)を使い始め、そのために必要な頭(脳漿)が
少しずつ進化し、火・言葉など、ほかの生命体に見ら
れない生活手段を次々と獲得し、今日の繁栄の礎を築
いたと謂われています。

会員の皆様にはこの人類特有の“ことば”を用いる
機会として日本ダボスへの投稿を考えて頂きたいと思
います。(大げさですがよろしくお願い致します。)

この十一月に無事に後期高齢者の仲間入りを果たし
た私に珍事が：下校の見守り隊に参加している地元
小学校一年生の女子児童の一人が、ある日私の周りで
うろろうろし何か言いたそうな様子なので、どうしたの？
と声を掛けるところ『私おじさんと結婚したいの』『え
っええーどうして』『だってカッコイイから』『…どう
もありがとう：』。人生の一大イベントの初告白をな
し終えた満足感からか、彼女は晴れ晴れとした笑顔で
自分の集合場所に戻っていきましたが、私にはその後
ろ姿に御光が射しているように思えました。その所為
か、私はいまだにその彼女の顔が誰だったのか特定で
きずにいる始末です。今はやりの婚活もここまで来た
のか：人生生きはしてみるものだと実感させられた
次第。

末筆で恐縮致しますが、上田市議会事務局の三井様
並びに真田地域自治センター、地域振興課の宮島様、
お忙しい時期に格別なご協力を頂き大変有難う御座い
ました。厚く御礼申し上げます。

原稿集めにご協力頂いた理事の皆さん、編集スタッ
フの皆さん大変お世話になりました。(武捨記)

祝 東京真田町の会

—会報23号—

ROGOVSKI

ロシア料理 渋谷ロゴスキー

URL : <http://www.rogovski.co.jp/>
E-mail : rogovski@rogovski.co.jp

ゆったりとしたくつろぎ

アットホームなやすらぎ

シック&カジュアル

ビルの最上階は最高のロケーション。窓際のお席では
眼下に渋谷の街並みが広がります。

20~25名様程の着席パーティーに最適なコーナーが
ございます。是非種々の会合にご利用下さい。

ロシア料理

渋谷ロゴスキー

東京都渋谷区道玄坂1-2-2
渋谷東急プラザ9階
TEL 03(3463)3665
FAX 03(3461)5084
営業時間 11:00 ~ 22:00 年中無休

ロゴスキー 世田谷区深沢5-5-17
深沢カフェ TEL 03(5706)5922



TOY'S FACTORY

Imaginations are free and fun,
and excitements more wonderful and much greater

"発想は自由に楽しく、そして感動は素敵に、より大きく"

- Mr. Children
- ケツメイシ
- BUMP OF CHICKEN
- RAG FAIR
- ゆず
- melody.

株式会社 トイズファクトリー 代表取締役 井出 孝光

SUN あなたの街のハウジングパートナー
STATE

代表取締役

株式会社 サンステイト 最上忠

東京都知事(6)第58002 社団法人 不動産歩容協会会員
社団法人 全日本不動産協会会員

〒155-0093 東京都世田谷区上野毛 2-7-18
Tel 03-5706-5454 Fax 03-5706-5453

Email: sunstate@coffee.ocn.ne.jp

祝 東京真田町の会 —会報23号—

<p>東京真田町の会</p> <p>顧問 中島正江 (戸沢出身)</p> <p>〒158-0091 東京都世田谷区中町 4-35-17E ☎ 03-3702-1385</p>	<p>貿易物流研究所所長 東京真田町の会</p> <p>顧問 小林孝雄 (曲尾出身)</p> <p>〒234-0051 神奈川県横浜市港南区日野 4-45-5 ☎ 045-843-8041</p>
<p>齋藤指圧治療院</p> <p>齋藤勇一 (真田出身)</p> <p>〒156-0043 東京都世田谷区松原 5-56-10 シャポール東松原 301号 ☎ 03-3322-6622</p>	<p>東京真田町の会</p> <p>顧問 塩沢和政 (大日向出身)</p> <p>〒276-0046 千葉県八千代市大和田新田 1074-37 ☎ 047-450-3348</p>
<p>東京六二会戦友会会計理事 東京真田町の会</p> <p>顧問 清水清晴 (中横道出身)</p> <p>〒201-0002 東京都狛江市東野川 3-12-2 ☎・FAX 03-3489-0763</p>	<p>オートマタ(西洋からくり)製造・販売 いくさ工房</p> <p>鈴木郁夫(横尾出身)</p> <p>〒336-0034 埼玉県さいたま市南区内谷 4-13-7 ☎・FAX: 048-864-0295, mail: s-ikusa@dab.hi-ho.ne.jp http://www.dab.hi-ho.ne.jp/s-ikusa/</p>
<p>新鮮青果.com</p> <p>代表者 中島偉充 Yorimitsu Nakajima</p> <p>〒158-0091 東京都世田谷区中町 4-35-17E ☎・FAX 03-3704-7875 E-mail: info@shinsenseika.com URL: http://www.shinsenseika.com</p>	<p>東京海上日動火災保険株式会社 代理店 東京海上日動あんしん生命保険株式会社 代理店 堀内インシュアランスサービス</p> <p>代表 堀内寅次</p> <p>〒337-0032 さいたま市見沼区東新井 939-64 ☎ 048-685-5282 FAX 048-687-9122 携帯 090-1120-4058 http://www.tokio_nichido.com</p>
<p>東京真田町の会</p> <p>顧問 三井芳郎</p> <p>〒386-2203 長野県上田市真田町傍陽 11510 ☎ 0268-73-2616</p>	<p>国画水墨院常任理事 (元)日本選抜美術家協会常任理事審査員 国画院会員、師範</p> <p>森本幹生 (入軽井沢出身)</p> <p>〒211-0062 川崎市中原区小杉陣屋町 1-6-8 ☎ 044-733-0267</p>
<p>御殿場市・小山町 長野県人会</p> <p>顧問 柳沢喜三郎 (萩出身)</p> <p>〒412-0045 静岡県御殿場市川島田 748-2 ☎ 0550-83-0081</p>	<p>御芳志御礼</p> <p>堀内 年治 様(上田市在住)より会の活動資金として3万円のご芳志を頂戴致しました。有難うございました。</p>

祝 東京真田町の会 —会報23号—

社団法人 日本証券アナリスト協会 主催

個人投資家向け会社説明会を 定期的に開催しています！

当協会では、個人の資本市場参入促進への取り組みの一環として、個人投資家向け会社説明会を定期的に開催しています。上場企業の経営陣から事業内容や経営方針、業績見通し等を直接聞くことができる絶好の機会です。是非ご参加ください。

1. 開催日程

	日 程	開催予定社数
第18回	平成23年 2月：7日間	21社
	8日(火)、10日(木)、14日(月)、15日(火)、 16日(水)、17日(木)、21日(月)	
第19回	平成23年 3月：7日間	21社
	9日(水)、10日(木)、11日(金)、15日(火)、 16日(水)、17日(木)、18日(金)	

2. 会場 当協会第1セミナールーム
(東京証券取引所ビル6F)
3. 参加募集人員 先着200名(参加費無料)
4. 開催時間帯 12:30、13:35、14:40から
各50分間(1日3社開催)

申込方法等の詳細は各回開催日の約1カ月前に
当協会ホームページ(<http://www.saa.or.jp>)に
掲載いたします。



お問い合わせ先

SAAJ

社団法人 日本証券アナリスト協会
〒103-0026 東京都中央区日本橋兜町2-1 (東京証券取引所ビル5階)
TEL: 03-3666-1632 FAX: 03-3666-6610
E-mail: i-kaisai@saa.or.jp
ホームページ: <http://www.saa.or.jp>

当協会では個人の資本市場への参入を推進しています。

祝 東京真田町の会

—会報23号—



株式会社 真田不動産

株式会社真田不動産は創業25年、東京都内を中心に独自のネットワークによる不動産物件の買い付けおよび販売、不動産競売による入札(仕入れ、販売)業務を展開し、「中古住宅再生事業」を主たる業務としております。

さらに自社所有物件、IMPERIAL(インペリアル)/吉~五番館は斬新で人気の全65室を所有しております。

会社概要

商号	株式会社 真田不動産
設立	昭和63年9月28日
所在地	〒120-0005 東京都足立区綾瀬6丁目30番8号
登録番号	東京都知事(1)第87786号
電話	03-3620-2511
FAX	03-3620-2744
ホームページ	http://www.sanada-fudosan.com/



(吉番館屋上庭園)



(弐番館屋上グリーン)



(真田家伝来甲冑/当社所蔵)

プロフィール

当社、代表取締役 堀内 政は生まれ故郷(長野県上田市真田町)信濃路を後に単身上京、乍らアパレル関係に従事。10年後、紳士服販売(和光)として独立を果たし、その後、縁あり不動産業に参入しました。(沿革参照)

株式会社真田不動産の社名は、六連銭の家紋で戦国の世に於いて、智謀に優れ、又、武功に長けた謀将として名を馳せた真田幸村(信繁)の発祥地(上田市真田町)が同郷と云う事からの由来です。

営業方針

“小さくてもキラリと光る”営業指針を目指し、バランスシート(貸借対照表)を常に考慮の上、その時代の流れと不動産市況を柔軟に捉えながら、東京23区全域を網羅し、且つ、案件事に即断・即決で対応しています。営業販路は、業者販売とエンドユーザー向けと、各々半分位の割合で、フットワークよく精力的に活動を行っております。また、自社所有の収益物件を2~3期ごとに取得しており、賃貸収入で企業収支の安定化を計り営業展開を遂行しております。



初夏のふるさと…あじさいと千古の滝



日本ダボス 平成22年12月25日発行

発行 東京真田町の会 会長 山口 元彦

〒184-0012 東京都小金井市中町2-19-6

編集委員

武捨 衛人 鈴木 邦子 古市 礼子

印刷

上田市・精巧堂(株)アオヤギ印刷

(写真撮影 : 編集部 武捨 衛人)

TEL 042-383-6555 FAX 03-3815-3341